河内長野市遺跡調査会報XXⅢ

太　井　遺　跡
観　心　寺　遺　跡

２０００年３月

河内長野市遺跡調査会

序　　文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、豊かな自然に恵まれ、高野街道に代表される和歌山や奈良へ向かう街道の要衝として発展してきた街です。このため市内には数多くの文化財が残されています。

このような河内長野市は、大阪市内への通勤圏に位置しているため、住宅都市として発達してきました。この住宅開発がもたらした文化財や自然に対する影響も大きいものがあります。とくに、地下に眠る埋蔵文化財は開発と直接に結び付く大きな問題です。

遺跡に託されている河内長野の先人達のメッセージである文化遺産を保護・保存し、さらには未来の市民へ伝えていくことは、現代に生きる私達の責務であります。河内長野市に於いては、重要な課題である開発と文化財保護との調和のため、開発に先立ち埋蔵文化財の発掘調査を実施し、その把握に努めています。

本書は発掘調査の成果を収録しています。皆様が先人達の残したメッセージの一部でもある文化財に対するご理解を深めていただくとともに、文化財の保護・保存・研究するための資料として活用していただければ幸いです。

これらの発掘調査に協力していただきました施主の方々の埋蔵文化財への深いご理解に末尾ながら謝意を表すものです。

平成12年３月

河内長野市遺跡調査会
理事長　福　田　弘　行

例　　言

1．本書は平成10年度から11年度にかけて実施した太井遺跡（ＯＯＩ98－１・99－１）及び観心寺遺跡（ＫＳＴ99－１）の発掘調査報告書である。調査にかかる費用は、太井遺跡は河内長野市、観心寺遺跡は大阪府警察本部が負担した。

2．調査は河内長野市教育委員会教育部社会教育課主幹兼文化財保護係長尾谷雅彦・同課文化財保護係鳥羽正剛・太田宏明を担当者として実施し、内業調査については河内長野市立ふれあい考古館館長中西和子が補佐した。

3．調査にかかる事務は河内長野市遺跡調査会事務局長大塚幸男（社会教育課課長補佐兼務）が主担した。

4．本書の執筆は鳥羽が行い、編集は中村幸子が補佐した。文責は鳥羽が負うものである。

5．発掘調査及び内業整理については下記の方々の参加を得た。

　喜多順子・木村友晃・杉本祐子・田川富子・竹原弘展・辻宏子・枡本裕子・松尾和代・三好清超・牟田口京子

6．発掘調査については下記の方々の協力を得た。記して感謝する。（敬称略）

　大阪府警察本部総務部・河内長野警察署・河内長野市環境経済部農とみどりの整備課・株式会社島田組・写測エンジニアリング株式会社・西川正彦（千早赤阪村教育委員会）・前田義昭・藤田徹也

7．写真撮影は、遺構については鳥羽・太田・中西、遺物については中西が行った。

8．本調査の記録はスライドフィルム等でも保管しており、広く一般の方々に活用されることを望むものである。

凡　　例

1．本報告書に記載されている標高はＴＰを基準としている。

2．土色は『新版標準土色帖』による。

3．平面測量は国土座標第Ⅵ系による５ｍメッシュを基準に実施した。

4．図中の北は座標北である。

5．本書の遺構名は下記の略記号を用いた。

　ＳＤ…溝　ＳＥ…井戸　ＳＧ…耕作地　ＳＫ…土坑　ＳＰ…遺物出土ピット

　ＳＷ…石垣　ＮＶ…落ち込み

6．遺構の実測図の縮尺は、1/20・1/30・1/40・1/60・1/100とした。

7．遺物の実測図の縮尺は、石器2/3、縄文土器1/3、その他の土器1/4、瓦1/4、石製品1/4、金属製品1/3・1/4、銅銭原寸とした。

8．石器・縄文土器・土師質土器の断面は白抜き、瓦器・瓦質土器・須恵質土器・陶器の断面は黒塗り、瓦・金属製品の断面は斜線である。

9．実測図の遺物番号と写真図版のそれは一致する。

10．文中の瓦器埦の型式分類は尾上実氏の和泉型瓦器埦の編年に基づき、その実年代は森島康男氏によって見直されたものに基づくものである。なお器種名については調査会の表記によるものとする。

目　　次

序文
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
図版目次
第１章　太井遺跡　ＯＯＩ98－１・99－１…… 1
　第１節　位置と環境…… 1
　第２節　調査に至る経過…… 1
　第３節　調査の結果…… 2
　　１　ＯＯＩ98－１…… 2
　　２　ＯＯＩ99－１…… 9
　第４節　まとめ…… 12
第２章　観心寺遺跡　ＫＳＴ99－１…… 13
　第１節　位置と環境…… 13
　第２節　調査に至る経過…… 13
　第３節　寺史の沿革…… 14
　第４節　調査の結果…… 17
　第５節　まとめ…… 20

挿　図　目　次

第１図　河内長野市遺跡分布図（1/40000）…… 巻頭
太井遺跡（ＯＯＩ98－１）
第２図　調査区位置図（1/5000）…… 1
第３図　遺構配置図（1/100）及び土層断面実測図（1/40）…… 3～4
第４図　ＳＫ８遺構実測図（1/40）…… 5
第５図　ＳＫ８・９出土遺物実測図…… 5
第６図　ＳＰ２出土遺物実測図…… 6
第７図　ＮＶ１出土遺物実測図…… 7

第８図　ＮＶ２出土遺物実測図…… 7
第９図　包含層出土遺物実測図…… 8
太井遺跡（ＯＯＩ99－１）
第10図　遺構配置図（1/100）及び土層断面実測図（1/60）…… 9
第11図　ＳＤ１出土遺物実測図…… 10
第12図　第１調査区包含層出土遺物実測図…… 11
第13図　第３調査区包含層出土遺物実測図…… 11
観心寺遺跡（ＫＳＴ99－１）
第14図　調査区位置図（1/5000）…… 13
第15図　『河内名所図会』巻之一錦部郡「観心寺本堂」…… 15
第16図　『観心寺境内図』…… 15
第17図　遺構配置図（1/100）及び土層断面実測図（1/60）…… 16
第18図　ＳＤ１出土遺物実測図…… 17
第19図　ＳＤ１遺物出土状況図（1/20）…… 17
第20図　ＳＫ３遺物出土状況図（1/30）…… 18
第21図　ＳＫ３出土遺物実測図…… 18
第22図　ＳＰ１・２出土遺物実測図…… 19
第23図　包含層出土遺物実測図…… 19

表　目　次

第１表　河内長野市遺跡地名表…… 巻頭

図　版　目　次

図版１　遺構　太井遺跡（ＯＯＩ98－１）調査区全景（南から）、調査区全景（北西から）
図版２　遺構　太井遺跡（ＯＯＩ98－１・99－１）
１．ＯＯＩ98－１　ＮＶ２（西から）
２．ＯＯＩ99－１　第１調査区（北から）
３．ＯＯＩ99－１　第１調査区（南から）
図版３　遺構　太井遺跡（ＯＯＩ99－１）第２調査区（西から）、第３調査区（西から）
図版４　遺構　観心寺遺跡（ＫＳＴ99－１）調査区全景（東から）、調査区全景（南から）
図版５　遺構　観心寺遺跡（ＫＳＴ99－１）ＳＥ１（南西から）、ＳＤ１（西から）

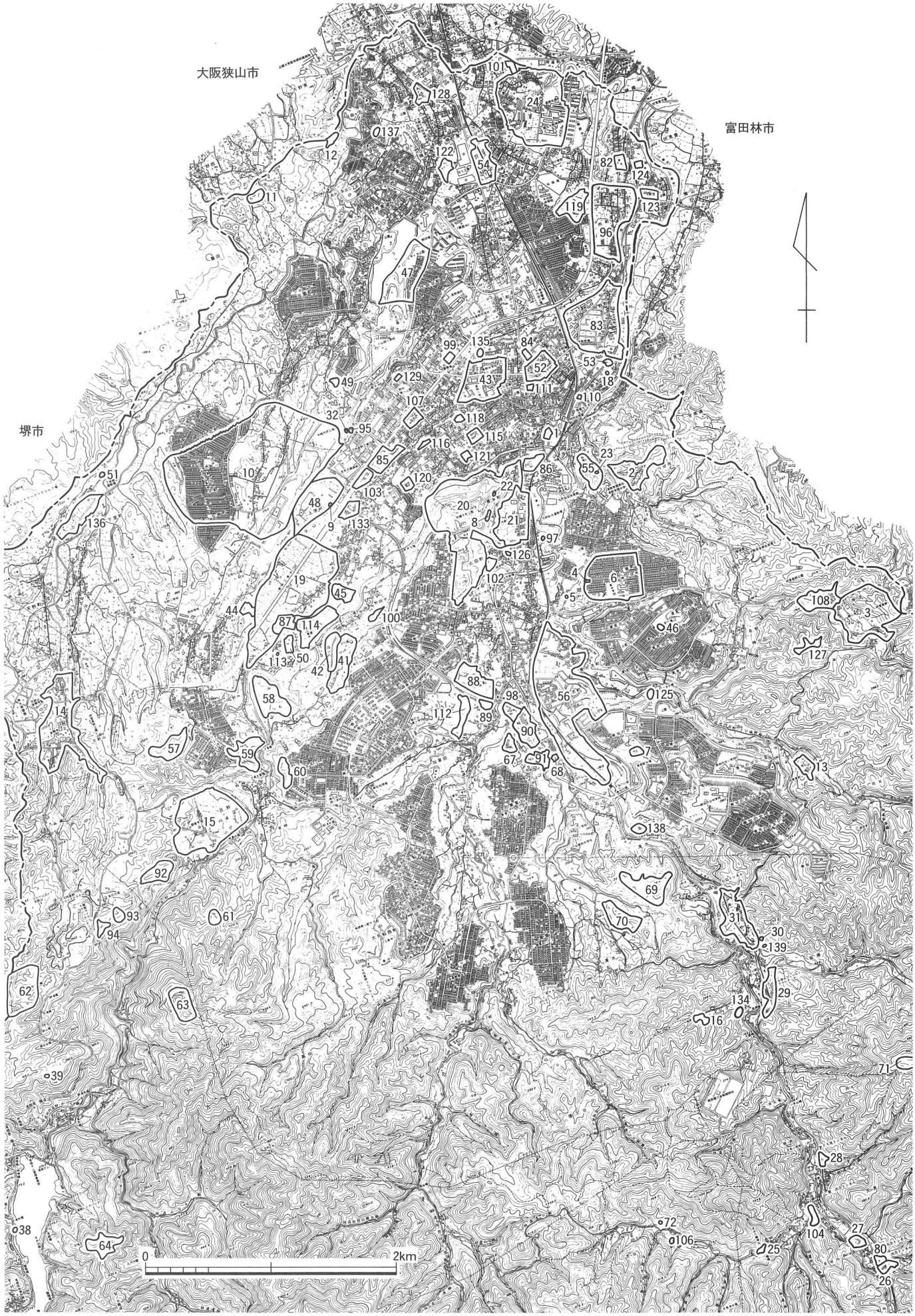
図版６　遺構　観心寺遺跡（ＫＳＴ99－１）ＳＫ３（南西から)、作業状況

図版７　遺物　太井遺跡（ＯＯＩ98－１）ＳＫ９（１)、ＮＶ１（５～７)、ＮＶ２（23・24)、含包層（28～30)

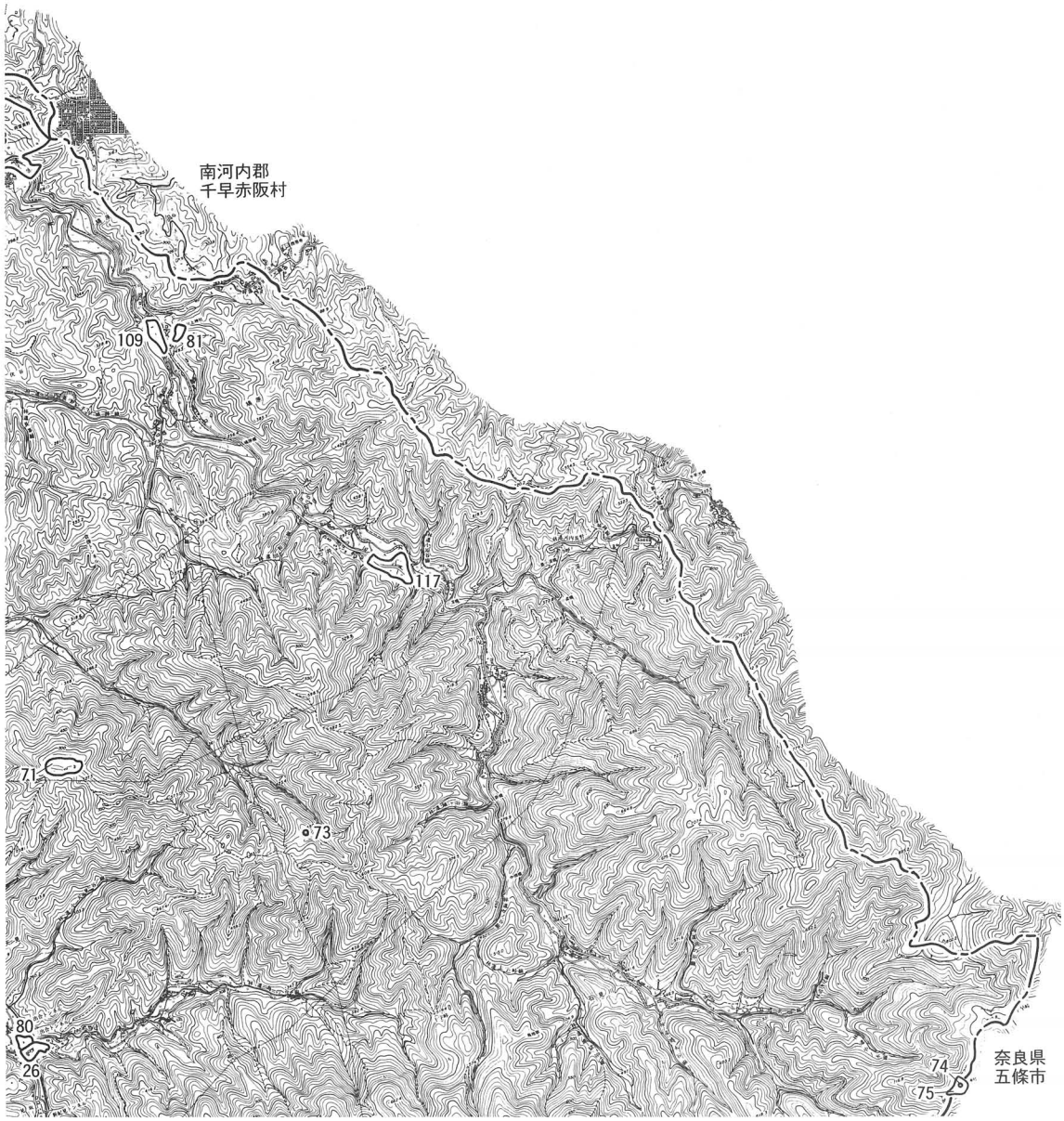
図版８　遺物　太井遺跡（ＯＯＩ98－１）ＳＫ８（２)、ＳＫ９（３)、ＳＰ２（４)、ＮＶ１（９・10・12～22)、ＮＶ２（25～27)、包含層（31～43)

図版９　遺物　太井遺跡（ＯＯＩ99－１）ＳＤ１（44～58)、第１調査区包含層（59～65)、第３調査区包含層（66)

図版10　遺物　観心寺遺跡（ＫＳＴ99－１）ＳＤ１（67～76)、ＳＫ３（77)、ＳＰ１（79)、ＳＰ２（80)、包含層（81～84・86～91)



第１図　河内長野市遺跡分布図（1/40000）


南河内郡
千早赤阪村
109
81
117
71
73
80
26
74
75
奈良県
五條市

番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町以降
2	河合寺遺跡	社寺	平安以降
3	観心寺遺跡	社寺	平安以降
4	大師山古墳	古墳	古墳（前期）
5	大師山南古墳	古墳？	古墳（後期）
6	大師山遺跡	集落・生産	弥生（後期）・平安
7	興禅寺遺跡	社寺	中世以降
8	烏帽子形八幡神社遺跡	社寺	室町以降
9	塚穴古墳	古墳・墳墓	古墳（後期）・近世
10	長池窯跡群	生産	平安～近世
11	小山田1号古墓	墳墓	奈良
12	小山田2号古墓	墳墓	奈良
13	延命寺遺跡	社寺	平安以降
14	天野山金剛寺遺跡	社寺・墳墓	平安以降
15	日野観音寺遺跡	社寺・生産	平安～中世
16	地蔵寺遺跡	社寺	中世以降
(17)	岩湧寺遺跡	社寺	平安以降
18	五ノ木古墳	古墳	古墳（後期）
19	高向遺跡	集落	旧石器～中世
20	烏帽子形城跡	城館・生産	中世～近世
21	喜多町遺跡	集落	縄文・古墳～中世
22	烏帽子形古墳	古墳	古墳（後期）
23	末広窯跡	生産	中世
24	塩谷遺跡	散布地	縄文～中世
25	流谷八幡神社	社寺	平安以降
26	蟹井淵南遺跡	散布地	中世
27	蟹井淵北遺跡	散布地	中世
28	天見駅北方遺跡	散布地	中世
29	千早口駅南遺跡	社寺	中世
30	岩瀬薬師寺遺跡	社寺	中世以降
31	清水遺跡	散布地	中世
32	伝「仲哀廟」古墳	古墳？	
(33)	堂村地蔵堂跡	社寺	近世
34	滝畑埋墓	墳墓	近世
(35)	中村阿弥陀堂跡	社寺	近世
(36)	東の村観音堂跡	社寺	近世
(37)	西の村観音堂跡	社寺	近世
38	清水阿弥陀堂跡	社寺	近世
39	滝尻弥勒堂跡	社寺	近世
(40)	宮の下内墓	墳墓	古墳
41	宮山古墳	古墳	古墳
42	宮山遺跡	集落	縄文・奈良
43	西代藩陣屋跡	散布地・城跡	飛鳥～奈良・江戸
44	上原町墓地	墳墓	近世
45	惣持寺跡	散布地・社寺	縄文・奈良・鎌倉
46	栗山遺跡	祭祀	中世～近世
47	寺ケ池遺跡	散布地	縄文
48	上原遺跡	散布地	旧石器～近世
49	住吉神社遺跡	社寺	近世以降
50	高向神社遺跡	社寺	中世以降
51	青が原神社遺跡	社寺	中世以降
52	膳所藩代官所跡	城館	江戸
53	双子塚古墳跡	古墳	古墳
54	菱子尻遺跡	散布地・社寺	縄文～近世
55	河合寺城跡	城館	中世
56	三日市遺跡	集落・古墳他	旧石器～近世
57	日の谷城跡	城館	中世
58	高木遺跡	散布地	縄文
59	汐の山城跡	城館	中世
60	峰山城跡	城館	中世
61	稲荷山城跡	城館	中世
62	国見城跡	城館	中世
63	旗蔵城跡	城館	中世
64	権現城跡	城館	中世
(65)	天神社遺跡	社寺	中世以降
(66)	葛城第15経塚	経塚	平安以降
67	加賀田神社遺跡	社寺	中世以降
68	庚申堂	社寺	近世以降
69	石仏城跡	城館	中世
70	佐近城跡	城館	中世

番号	文化財名称	種類	時代
71	旗尾城跡	城館	中世
72	葛城第16経塚	経塚	平安以降
73	葛城第18経塚	経塚	平安以降
74	葛城第19経塚	経塚	平安以降
75	笹尾塞	城館	中世
(76)	大沢塞	城館	中世
(77)	三国山経塚	経塚	平安以降
(78)	光滝寺	社寺	中世以降
(79)	猿子城跡	城館	中世
80	蟹井淵神社遺跡	社寺	中世以降
81	川上神社遺跡	社寺	中世以降
82	千代田神社遺跡	社寺	中世以降
83	向野遺跡	集落・生産	縄文・平安～近世
84	古野町遺跡	散布地	中世
85	上原北遺跡	集落	中世
86	大日寺遺跡	社寺・古墳・墳墓	弥生～中世
87	高向南遺跡	散布地	鎌倉
88	小塩遺跡	集落	縄文～奈良
89	加塩遺跡	集落	古墳（後期）
90	尾崎遺跡	集落	古墳～中世
91	ジョウノマエ遺跡	城館？	中世
92	仁王山城跡	城館	中世
93	タコラ城跡	城館	中世
94	岩立城跡	城館	中世
95	上原近世瓦窯	生産	近世
96	市町東遺跡	散布地	弥生・中世
97	上田町窯跡	生産	近世
98	尾崎北遺跡	集落	古墳～中世
99	西之山町遺跡	散布地	中世
100	野間里遺跡	集落	平安
101	鳴尾遺跡	散布地	中世
102	上田町遺跡	散布地	古墳・中世
103	上原中遺跡	散布地	古墳・中世
104	小野塚	墳墓	中世
(105)	葛城第17経塚	経塚	平安以降
106	薬師堂跡	社寺	中世以降
107	野作遺跡	集落	中世
108	寺元遺跡	集落・社寺	奈良・中世・近世
109	鳩原遺跡	散布地	中世
110	法師塚古墳跡	古墳	古墳
111	山上講山古墳跡	古墳	古墳
112	西浦遺跡	集落	古墳・中世・近世
113	地福寺跡	社寺	近世
114	宮の下遺跡	集落	平安～中世
115	栄町遺跡	散布地	弥生・古墳・中世
116	錦町遺跡	散布地	中世
117	太井遺跡	散布地・集落	縄文・中世
118	錦町北遺跡	集落	弥生・中世・近世
119	市町西遺跡	集落	縄文・中世
120	栄町南遺跡	集落	中世
121	栄町東遺跡	散布地	弥生・中世
122	楠町東遺跡	散布地	弥生
123	汐の宮町南遺跡	散布地	弥生・奈良
124	汐の宮町遺跡	散布地	中世
125	神ガ丘近世墓	墳墓	近世
126	増福寺	社寺	中世以降
127	三昧城遺跡	墳墓・城跡	中世・近世
128	松林寺遺跡	社寺	近世以降
129	昭栄町遺跡	散布地	中世
*130	東高野街道	街道	平安以降
*131	西高野街道	街道	平安以降
*132	高野街道	街道	平安以降
133	上原東遺跡	散布地	弥生・中世・近世
134	地蔵寺東方遺跡	墳墓	鎌倉
135	本多町北遺跡	散布地	中世
136	下里町遺跡	散布地	古墳・中世
137	あかしあ台遺跡	散布地	近世
138	岩瀬北遺跡	集落	中世
139	岩瀬近世墓地	墳墓	近世

（　）は地図範囲外　＊は街道につき地図上にプロットせず

第1表　河内長野市遺跡地名表

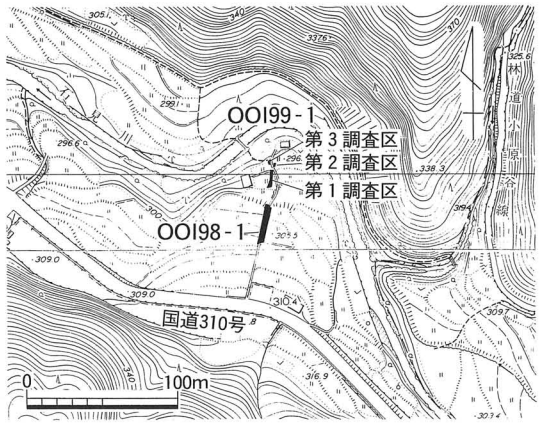
第１章　太井遺跡　ＯＯＩ98－１・99－１

第１節　位置と環境

太井遺跡は河内長野市太井に所在する。

地理的環境としては、金剛山系に水源をもち北西へと流れる石見川の左岸、標高約300ｍに位置する。太井遺跡の範囲は、東西約0.3㎞、南北約0.15㎞である。

歴史的環境としては、北西1.7㎞の石見川右岸には中世の散布地の鳩原遺跡、その東側の山際には中近世の寺社遺跡の川上神社遺跡がある。さらに同3.0㎞の石見川右岸には古代から法灯を伝える寺社遺跡の観心寺遺跡、その西側には古代から近世にかけての集落で、観心寺の旧境内を一部含む寺元遺跡、その対岸の石見川左岸には中世の三昧城遺跡がある。また、南東4.2㎞の金剛山系の尾根上には葛城修験道の行場である葛城第19経塚、中世の城跡の大沢塞、笹尾塞が位置している。



第２図　調査区位置図（1/5000）

第２節　調査に至る経過

本次調査は、平成10年度（ＯＯＩ98－１）は河内長野市地域振興部農林課、平成11年度（ＯＯＩ99－１）は農林課から機構改革した環境経済部農とみどりの整備課（以下、「市」という。）を事業主体とする五見農道改修工事に先立つ事前調査として行われたものである。

本市教育委員会（以下、「市教委」という。）は、計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地の太井遺跡内に位置することから、文化財保護法57条の３第１項に定める発掘通知の手続きを行うよう市に指示した。市は平成10年12月10日付で、市教委を窓口に大阪府教育委員会（以下、「府教委」という。）経由文化庁宛に通知を行った。その後埋蔵文化財の取り扱いについて、文化庁から工事の事前に発掘調査を実施するよう指示があり、この指示に基づき市は市教委に発掘調査依頼書を提出した。これを受けて市教委は調査については河内長野市遺跡調査会（以下、「調査会」という。）に委託するよう回答し、市と調査会は平成10年12月18日付で委託契約を締結した。調査は同年12月21日から平成11年２月５日にか

けて行われた。その結果、縄文時代と中世の遺構、遺物が認められた。

平成11年度についても平成10年度と同様、事業地が太井遺跡内に位置することから、文化財保護法57条の３第１項の発掘通知の手続きを市教委を窓口に府教委経由文化庁宛に行った。文化庁から工事の事前に発掘調査を実施するよう指示があったため、市は市教委に対し発掘調査を依頼した。市教委は前年度の調査経緯から調査会に発掘調査を依頼するよう、市に回答した。これを受けて市は平成11年11月４日付で調査会に発掘調査依頼書を提出し、平成11年11月12日付で市と調査会は委託契約を締結した。発掘調査は、事業区域内で埋蔵文化財に影響を与える部分について実施した。調査は平成11年11月15日から同年12月20日にかけて行われ、すべての業務を完了した。その結果、中世の遺構、遺物が認められた。

第３節　調査の結果

１　ＯＯＩ98－１

調査は表土を機械掘削し、次いで人力による掘削、精査、遺構検出、遺構掘削を行った。

遺構は土坑、畝跡、ピット、落ち込みを検出し、縄文土器、中世の土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵質土器、陶磁器、瓦などが出土した。

基本層序は、①耕土（層厚0.05m）、⑥床土（同0.05m）、⑦7.5YR5/3にぶい褐色粗砂混じり細砂（同0.1m）、⑧7.5YR4/3褐色シルト（同0.1m）であった。（第３図）

（１）　土坑

［ＳＫ１］

ＳＫ１は調査区の南端に位置する。南側が調査区外に及ぶため、詳細は不明である。検出規模は、長軸1.5m、短軸1.04m、深さ0.27mを測る。

遺物は瓦器埦、丸瓦が出土したが、細片のため実測できなかった。

［ＳＫ２］

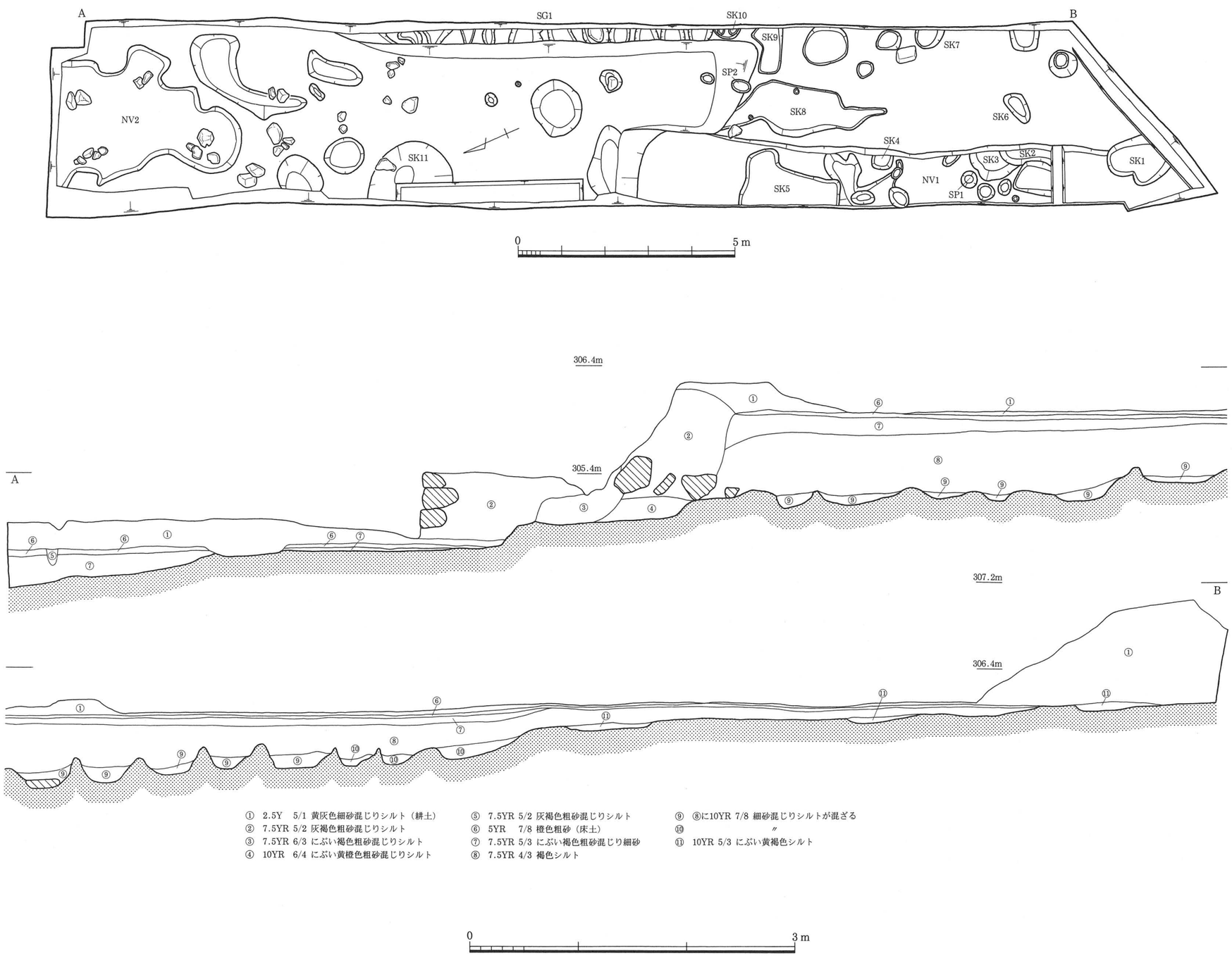
ＳＫ２は調査区の南側に位置する。他の遺構と重複しているため、詳細は不明である。検出規模は、長軸1.23m、短軸0.37m、深さ0.48mを測る。

遺物は瓦器埦が出土したが、細片のため実測できなかった。

［ＳＫ３］

ＳＫ３は調査区の南側に位置する。ＳＫ２及びＮＶ１と重複しているため、詳細は不明である。検出規模は、長軸1.2m、短軸0.69m、深さ0.36mを測る。

遺物は土師質土器の土釜が出土したが、細片のため実測できなかった。



① 2.5Y 5/1 黄灰色細砂混じりシルト（耕土）
② 7.5YR 5/2 灰褐色粗砂混じりシルト
③ 7.5YR 6/3 にぶい褐色粗砂混じりシルト
④ 10YR 6/4 にぶい黄橙色粗砂混じりシルト
⑤ 7.5YR 5/2 灰褐色粗砂混じりシルト
⑥ 5YR 7/8 橙色粗砂（床土）
⑦ 7.5YR 5/3 にぶい褐色粗砂混じり細砂
⑧ 7.5YR 4/3 褐色シルト
⑨ ⑧に10YR 7/8 細砂混じりシルトが混ざる
⑩ 〃
⑪ 10YR 5/3 にぶい黄褐色シルト

第３図　ＯＯＩ98－１遺構配置図（1/100）及び土層断面実測図（1/40）

［ＳＫ４］

ＳＫ４は調査区の南側に位置する。ＮＶ１と重複しているため、詳細は不明である。検出規模は、長軸0.52m、短軸0.34m、深さ0.17mを測る。

遺物は瓦器椀が出土したが、細片のため実測できなかった。

［ＳＫ５］

ＳＫ５は調査区南側の西端に位置する。西側が調査区外に及ぶため、詳細は不明である。検出規模は、長軸2.36m、短軸1.46m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質土器の皿、瓦器椀が出土したが、細片のため実測できなかった。

［ＳＫ６］

ＳＫ６は調査区の南側に位置する。遺構の平面形は歪な楕円形である。規模は、長径0.79m、短径0.45m、深さ0.2mを測る。

遺物は瓦器椀が出土したが、細片のため実測できなかった。

［ＳＫ７］

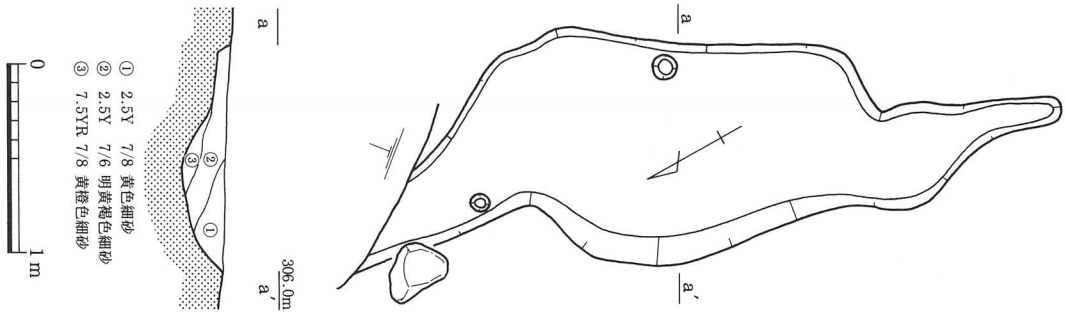
ＳＫ７は調査区南側の東端に位置する。東側が調査区外に及ぶため、詳細は不明である。検出規模は、長軸0.67m、短軸0.44m、深さ0.13mを測る。

遺物は土師質土器の皿・土釜、瓦器椀が出土したが、細片のため実測できなかった。

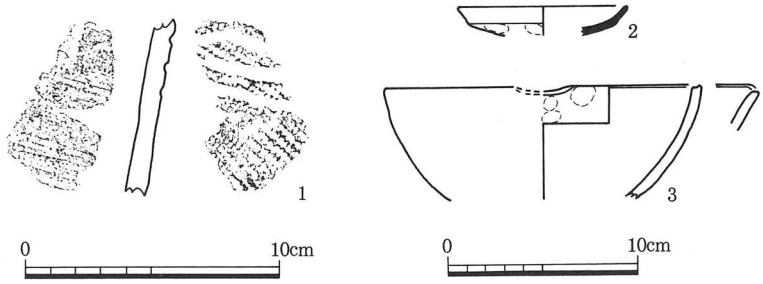
［ＳＫ８］（第４・５図、図版８）

ＳＫ８は調査区の中央部に位置する。遺構の平面形は北側が削平を受けているが、検出状況から不定形であることがわかる。検出規模は、長軸3.6m、短軸1.26m、深さ0.23mを測る。

遺物は土師質土器の皿・土釜、瓦器の皿（２）・椀、瓦質土器の甕が出土した。



第４図　ＳＫ８遺構実測図（1/40）



第５図　ＳＫ８・９出土遺物実測図

［ＳＫ９］（第５図、図版７・８）

ＳＫ９は調査区中央部の東端に位置する。東側が調査区に及ぶため、詳細は不明である。検出規模は、長軸1.04m、短軸0.74m、深さ0.18mを測る。

遺物は縄文時代後期初頭の中津式併行期の深鉢（１）、土師質土器の皿・片口埦（３）、瓦器埦が出土した。

［ＳＫ10］

ＳＫ10は調査区中央部の東端に位置する。東側が調査区外に及ぶため、詳細は不明である。検出規模は、長軸0.66m、短軸0.24m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦器埦が出土したが、細片のため実測できなかった。

［ＳＫ11］

ＳＫ11は調査区中央部の西端に位置する。西側が調査区外に及ぶため、詳細は不明である。検出規模は、長軸2.04m、短軸1.3m、深さ0.33mを測る。

遺物は器種不明の土師質土器が出土したが、細片のため実測できなかった。

（２） 耕作地

［ＳＧ１］

ＳＧ１は調査区中央部の東端に位置する。遺構の西側は削平を受け、東側は調査区外に及ぶため、詳細は不明であるが、その規模や断面の観察から畑の畝跡であることがわかる。検出した遺構は12条の畝で構成され、遺構の全幅8.5m、検出長0.35m、１条の畝の幅0.2～0.8m、高さ0.2mを測る。

遺物は土師質土器の皿・埦・土釜、瓦器埦、瓦質土器の皿が出土したが、細片のため実測できなかった。

（３） 遺物出土ピット

［ＳＰ１］

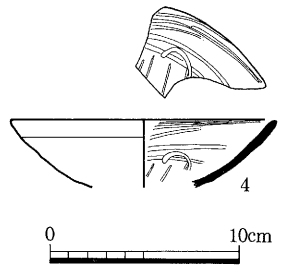
ＳＰ１は調査区の南側に位置する。遺構の平面形は円形である。規模は径0.36m、深さ0.1mを測る。

遺物は縄文土器が出土したが、細片のため実測できなかった。

［ＳＰ２］（第６図、図版８）

ＳＰ２は調査区の中央部に位置する。遺構の平面形は楕円形である。規模は長径0.46m、短径0.31m、深さ0.08mを測る。

遺物は瓦器埦（４）が出土した。



第６図　ＳＰ２出土遺物実測図

（４） 落ち込み

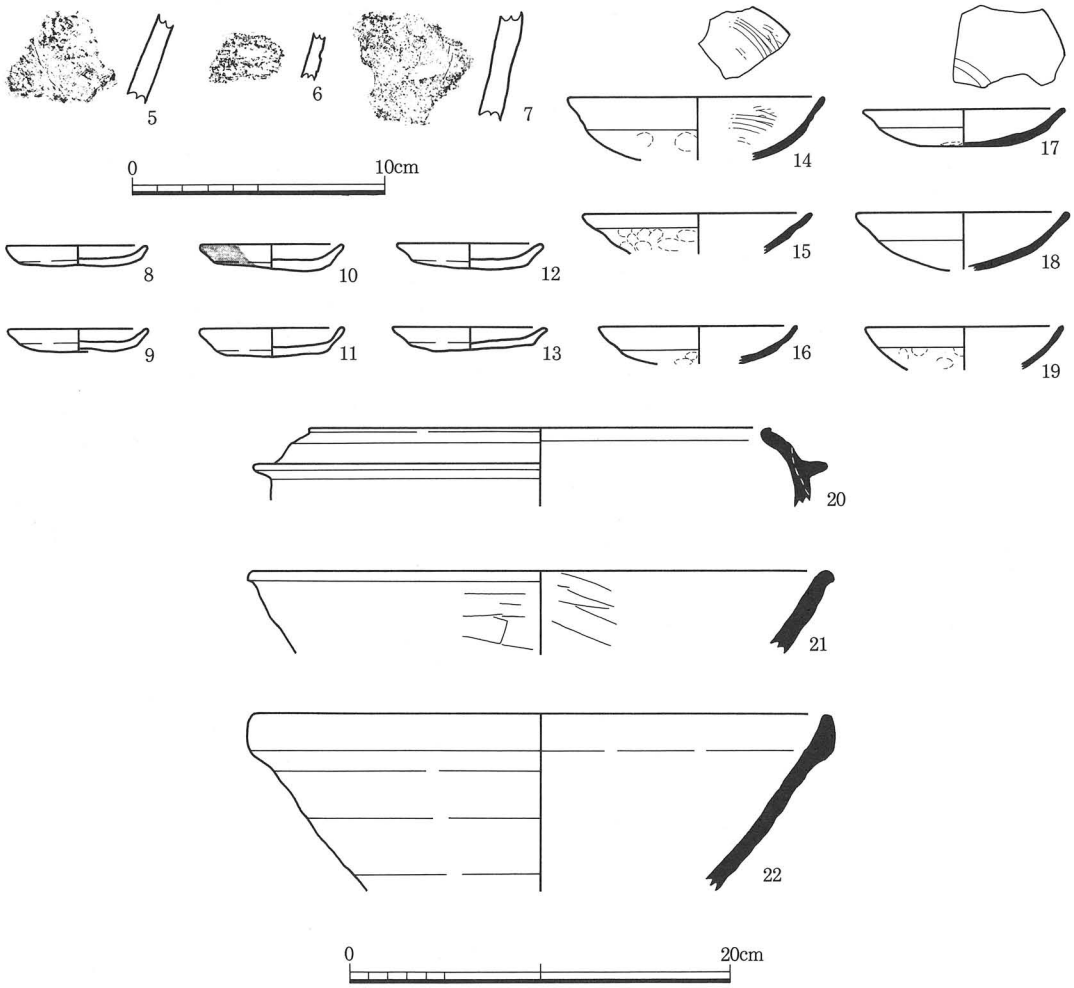
［ＮＶ１］（第７図、図版７・８）

ＮＶ１は調査区南側の西端に位置する。検出規模は、長軸12.84m、短軸1.12～1.62m、深さ0.02～0.11mを測る。

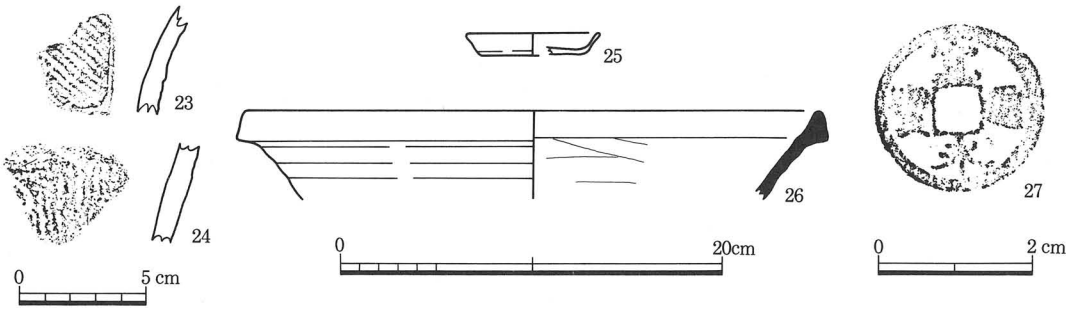
遺物は時期不明の縄文土器細片（５～７）、土師質土器の皿（８～13）・埦・甕、瓦器埦（14～19）、瓦質土器の土釜（20）・鉢（21）・甕、須恵質土器の練鉢（22）、常滑の甕が出土した。瓦器埦が和泉型瓦器埦の編年Ⅲ－３からⅣ－４に相当することから、13世紀前半から14世紀前半の遺構と見られる。

［ＮＶ２］（第８図、図版２・７・８）

ＮＶ２は調査区の北端に位置する。北側が調査区外に及ぶため、詳細は不明である。検



第７図　ＮＶ１出土遺物実測図



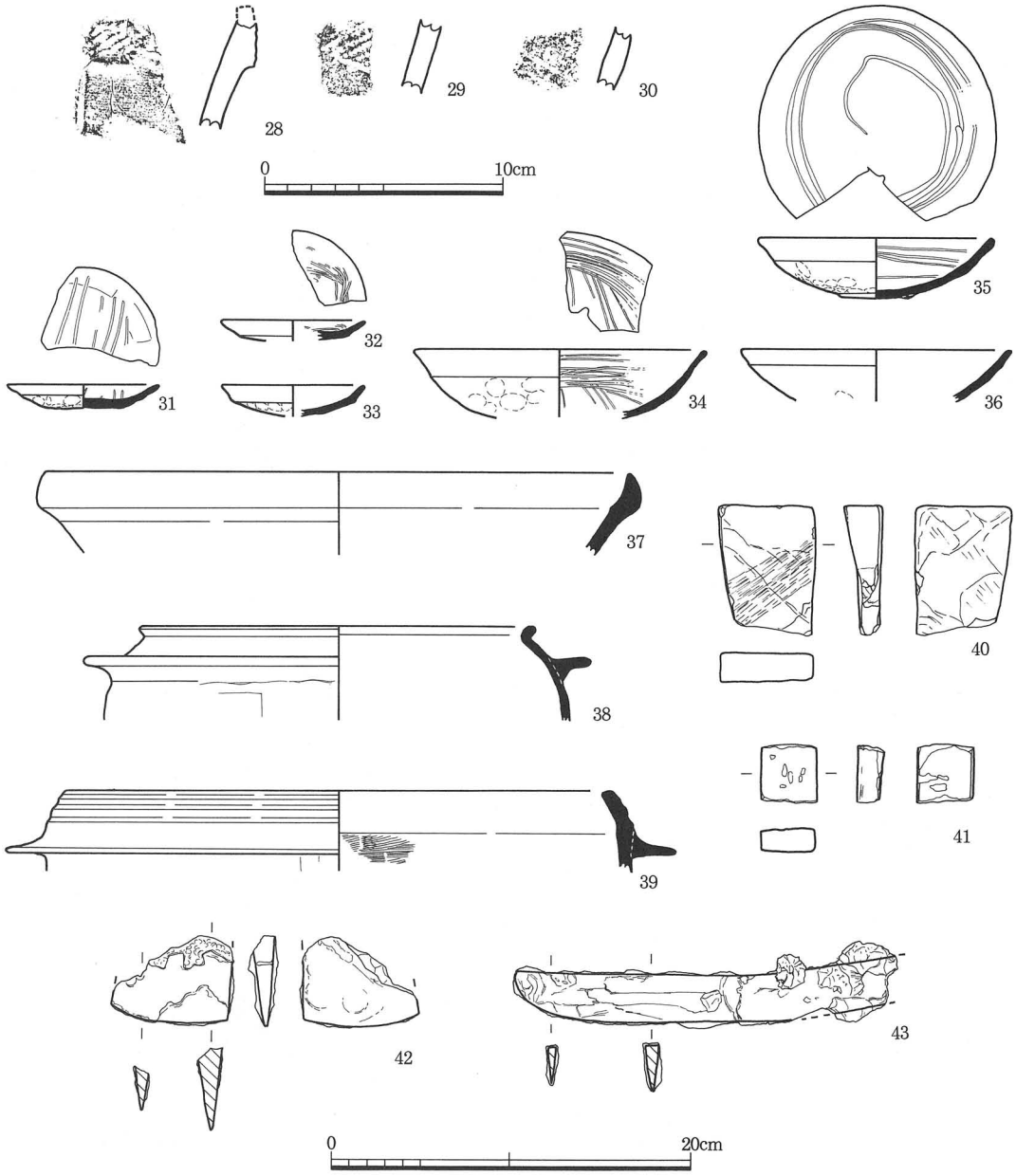
第８図　ＮＶ２出土遺物実測図

出規模は、長軸4.56m、短軸3.74m、深さ0.07～0.1mを測る。

遺物は縄文時代中期末の北白川C式併行期の深鉢（24）、後期初頭の中津式併行期の深鉢（23）、土師質土器の皿（25）、瓦器埦、瓦質土器の甕、須恵質土器の練鉢（26）、常滑の甕、寛永通寶（27）、丸瓦が出土した。

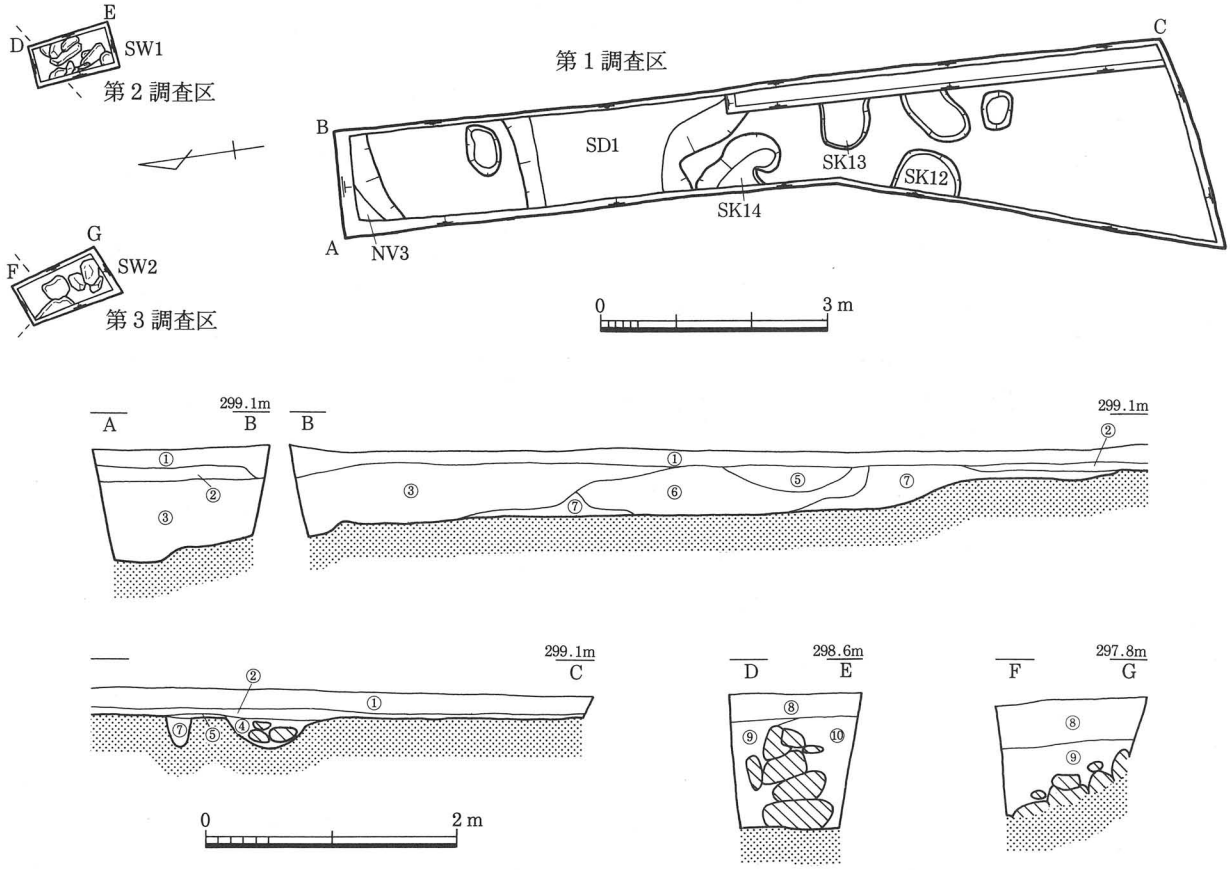
（5） 包含層（第9図、図版7・8）

包含層からは縄文時代中期後半の北白川C式併行期の深鉢（29・30）、後期の彦崎式併行期の深鉢（28）、土師質土器の皿・埦・土釜・甕、瓦器の皿（31～33）・埦（34～36）、瓦質土器の土釜（38・39）・甕、須恵質土器の練鉢（37）、備前の甕、磁器の碗、砥石（40・41）、鉄製の斧（42）・刀（43）が出土した。



第9図　包含層出土遺物実測図

2　ＯＯＩ99－１



第10図　ＯＯＩ99－１　遺構配置図（1/100）及び土層断面実測図（1/60）

調査区の位置する場所へは進入路の傾斜が急勾配で重機の搬入が困難なため、人力による掘削を行い、調査を進めた。調査区は遺構が残存すると考えられる畑地毎に、３カ所設定し、南から第１調査区、第２調査区、第３調査区とした。

第１調査区

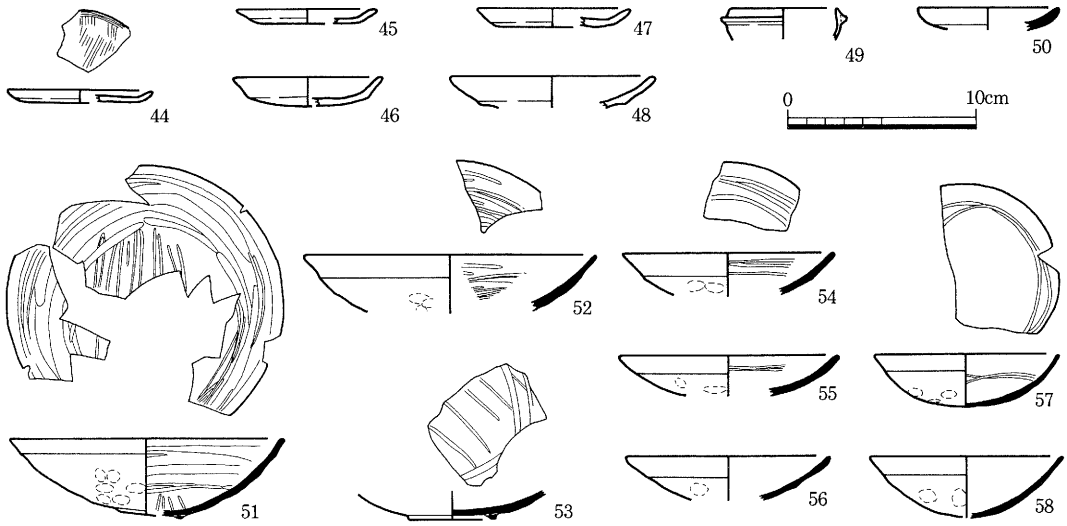
第１調査区から検出した遺構には溝、土坑、落ち込みがあり、中世の土師質土器、瓦器、瓦質土器、陶磁器が出土した。

基本層序は、①耕土（層厚0.15m）、②床土（同0.05m）であった。（第10図）

（１）　溝

［ＳＤ１］（第11図、図版９）

ＳＤ１は調査区の中央を東西に走る。東西端が調査区外に及ぶため、詳細は不明である。検出規模は、長さ1.18m、幅2.1～3.2m、深さ0.15mを測る。



第11図　ＳＤ１出土遺物実測図

遺物は土師質土器の皿（44～48）・土釜・甕・ミニチュアの土釜（49）、瓦器の皿（50）・椀（51～58）が出土した。瓦器椀が和泉型瓦器椀の編年Ⅲ－３からⅣ－４に相当することから、13世紀前半から14世紀前半の遺構と見られる。

（２）　土坑

［ＳＫ12］

ＳＫ12は調査区南側の西端に位置する。西側が調査区外に及ぶため、詳細は不明である。検出規模は、長軸0.84m、短軸0.6m、深さ0.13mを測る。

遺物は土師質土器の皿が出土したが、細片のため実測できなかった。

［ＳＫ13］

ＳＫ13は調査区中央部の東端に位置する。東側が調査区外に及ぶため、詳細は不明である。検出規模は、長軸0.65m、短軸0.64m、深さ0.06mを測る。

遺物は出土しなかった。

［ＳＫ14］

ＳＫ14は調査区の中央部に位置する。西側が調査区外に及ぶため、詳細は不明である。検出規模は、長軸1.2m、短軸0.75m、深さ0.3mを測る。

遺物は土師質土器の皿、瓦器椀が出土したが、細片のため実測できなかった。

（３）　落ち込み

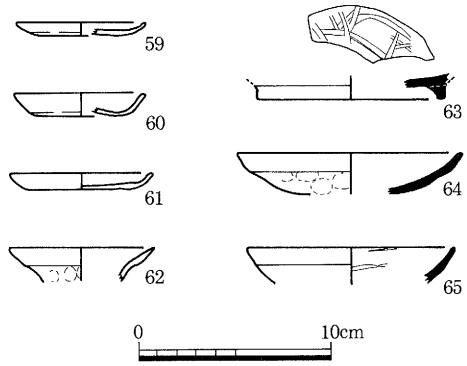
［ＮＶ３］

ＮＶ３は調査区の北端に位置する。北側及び東西端が調査区外に及ぶため、詳細は不明である。検出規模は、東西幅1.21m、南北幅0.5m、深さ0.23mを測る。

遺物は土師質土器の皿・鉢・土釜、瓦器椀、器種不明の陶器が出土したが、細片のため実測できなかった。

（4） 包含層（第12図、図版９）

第１調査区包含層からは、土師質土器の皿（59～62）・炮烙、瓦器椀（63～65）、瓦質土器の擂鉢・甕、陶器が出土した。



第12図　第１調査区包含層出土遺物実測図

第２調査区

第２調査区からは石垣が検出されたが、遺構に伴う遺物は出土しなかった。

層序は、⑧耕土（層厚0.2m）、⑨7.5YR4/4褐色礫混じり細砂（同0.8m）、⑩5YR4/2灰褐色礫混じり細砂（同0.8m）であった。（第10図）

（1） 石垣

［ＳＷ１］

石垣は地形に合わせて南側が上段、北側が下段となっている。高低差は0.8mで、軸方向はＮ－63°－Ｅである。石垣に用いられた石はすべて川原石で、最大のものは人頭大ほどであった。

（2） 包含層

第２調査区包含層からは、サヌカイトの剝片、土師質土器の皿、瓦器椀が出土したが、細片のため実測できなかった。

第３調査区

第３調査区からは、第２調査区と同様、石垣が検出されたが、遺構に伴う遺物は出土しなかった。

層序は、⑧耕土（層厚0.2m）、⑨7.5YR4/4褐色礫混じり細砂（同0.8m）であった。（第10図）

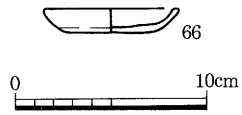
（1） 石垣

［ＳＷ２］

石垣は地形に合わせて南側が上段、北側が下段となっており、高低差は0.6mである。軸方向は２方向あり、Ｎ－65°－ＥとＮ－33°－Ｗの石垣が調査区内で接続するものと考えられる。石垣に用いられた石はすべて川原石で、最大のものは人頭大ほどであった。

（2） 包含層（第13図、図版９）

第３調査区包含層からは、土師質土器の皿（66）、瓦器椀が出土した。



第13図　第３調査区
包含層出土遺物実測図

第4節　まとめ

本報告の内、ＯＯＩ98－１の調査区では縄文時代中期末から後期初頭の土器が出土し、石見川流域の縄文時代遺跡の分布を考える上で貴重な成果が得られた。既往調査の結果、石見川の最上流域の縄文時代の散布地としては、寺元遺跡が確認されていたが（註１）、今回さらに3.5㎞上流の太井で検出されたことは、山間部の狭小な平坦地や緩やかな斜面地であれば、散布地が存在する可能性があることを表すこととなった。石見川流域には現在、鳩原、石見川という集落があり、太井遺跡に類似した立地が数カ所あることから、今後、縄文時代の遺跡が発見されることが考えられる。

中世の遺構については、遺物の編年と機種構成から、13世紀前半から14世紀後半の集落の一部を検出したものと考えられる。当初からＯＯＩ98－１の調査地では遺構の検出を予想していたが、石見川の川際に位置するＯＯＩ99－１の調査地では検出されることを見込んでいなかった。しかし、予想以上に遺構が面的に広がりをもって検出されたことから、今後、山間部の河川近くの調査区ではできるだけ川際付近まで遺構の確認を必要とすることを再認識することとなった。

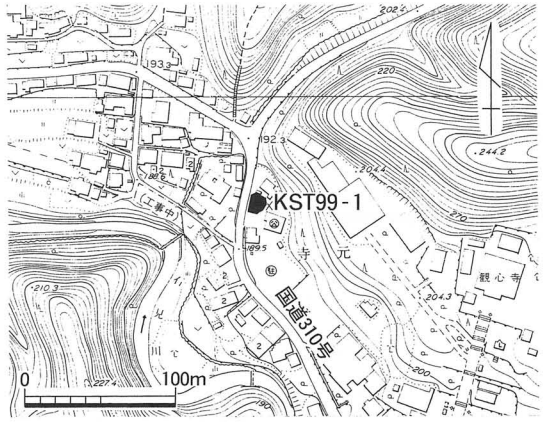
（註１）　河内長野市遺跡調査会　1995『河内長野市遺跡調査会報Ⅺ　寺元遺跡』

第２章　観心寺遺跡　ＫＳＴ99－１

第１節　位置と環境

観心寺遺跡は、河内長野市寺元に位置する。

地理的環境としては、金剛山系に水源をもつ石見川の右岸、標高約190ｍに位置する。観心寺遺跡の範囲は、東西約0.5㎞、南北約0.5㎞であるが、遺跡内には国史跡観心寺境内を含んでいる。本次調査は史跡内において実施した。



第14図　調査区位置図（1/5000）

歴史的環境としては、西側に近接して、古代から近世にかけての集落で、観心寺の旧境内の一部を含む寺元遺跡、その対岸の石見川左岸には中世の三昧城遺跡がある。北西1.7㎞の石見川右岸には、寺社遺跡の河合寺遺跡、その対岸の石見川と石川の間の丘陵上には中世の城跡の河合寺城遺跡及び近世の炭窯である末広窯跡がある。また、南東1.0㎞には中世の散布地の鳩原遺跡、その東側の山際には中近世の寺社遺跡の川上神社遺跡がある。さらに、同3.0㎞の石見川左岸には縄文時代の散布地で、中世の集落と見られる太井遺跡、同7.2㎞の金剛山系の尾根上には葛城修験道の行場である葛城第19経塚、中世の城跡の大沢塞、笹尾塞が位置している。

第２節　調査に至る経過

本次調査は、平成11年度に大阪府警察本部（以下、「府警」という。）を事業主体とする川上駐在所の新築工事に伴う事前調査として行われたものである。

事業実施予定の前年度である平成10年度、府警から河内長野市教育委員会（以下、「市教委」という。）に本市寺元に所在する川上駐在所の新築計画にあたり、文化財の取り扱いについて照会があった。これを受けて市教委は当該地が国史跡観心寺境内に位置するため、文化財保護法80条第１項に基づく史跡現状変更許可等申請書を市教委を窓口として文化庁に提出する必要があることを回答した。

平成11年５月11日に府警から市教委へ史跡現状変更許可等申請書の提出があった。その後、平成11年６月16日付で、文化庁から建築に際し事前に発掘調査を実施し、重要な遺構・

遺物が発見された場合は、設計変更などによりその保存を図るようにとの指示があった。

この指示を受け、平成11年４月30日、府警は市教委宛に発掘調査依頼書を提出し、市教委は調査機関として河内長野市遺跡調査会（以下、「調査会」という。）に発掘調査を委託するよう回答した。平成11年５月27日付で府警は調査会に発掘調査及び見積依頼書を提出し、平成11年６月24日付で両者は発掘調査にかかる契約を締結した。調査は同年６月24日から平成12年２月29日まで行った。その結果、中近世の遺構、遺物が認められた。

第３節　寺史の沿革

寺伝によれば、観心寺の創建は大宝年間（701～704）に役行者が雲心寺と称し、開創したことに始まる。その後天長二年（825）に空海（弘法大師）が寺号を観心寺と改め、密教寺院として現在に至るまで法灯を伝えている（現在、高野山真言宗）。

当該遺跡での既往の発掘調査では、現在のところ寺院草創期の遺構は検出されていない。しかし、当寺には奈良時代前期（白鳳時代）の金銅仏４軀（観音３軀、釈迦１軀、いずれも重要文化財）が伝えられていることから、奈良時代には開創されたであろうと考えられている。

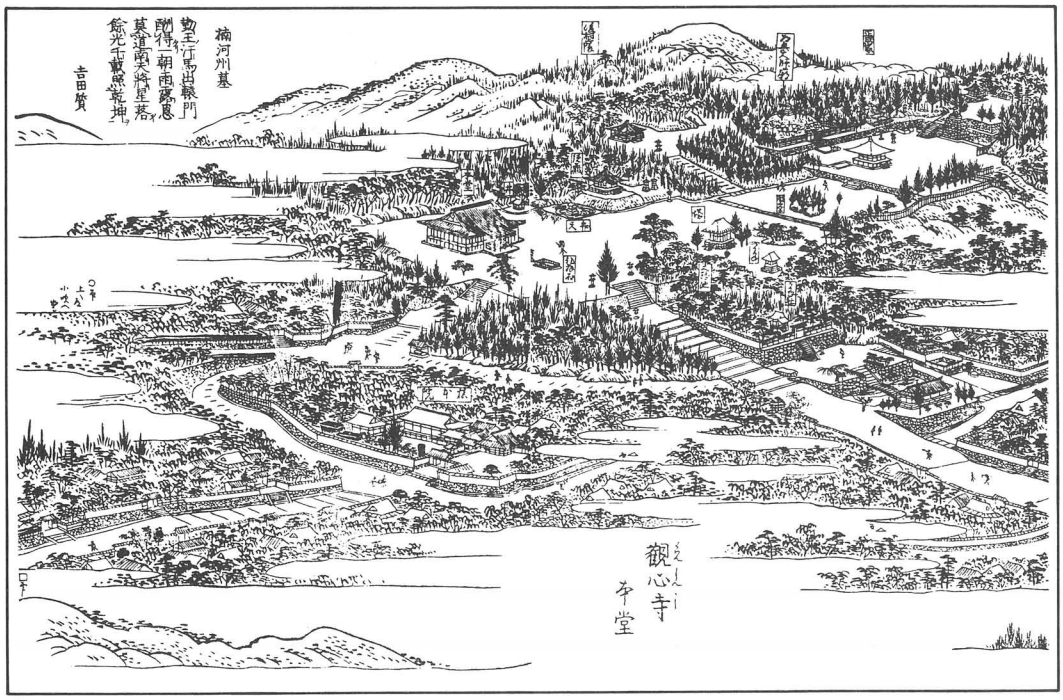
歴史的には、『観心寺縁起資材帳』（国宝）をはじめ多数の文献史料から、各時代の伽藍の様子などを知ることができる。

平安時代前期の貞観十一年（869）には、清和天皇によって勅願定額寺として認められ、これ以後官寺として勢力を広げ、当時の河内国錦部郡・石川郡・古市郡（現在の大阪府南東部）、紀伊国伊都郡・那賀郡（現在の和歌山県北東部）、但馬国養父郡（現在の兵庫県北東部）に広大な寺領を有していた。

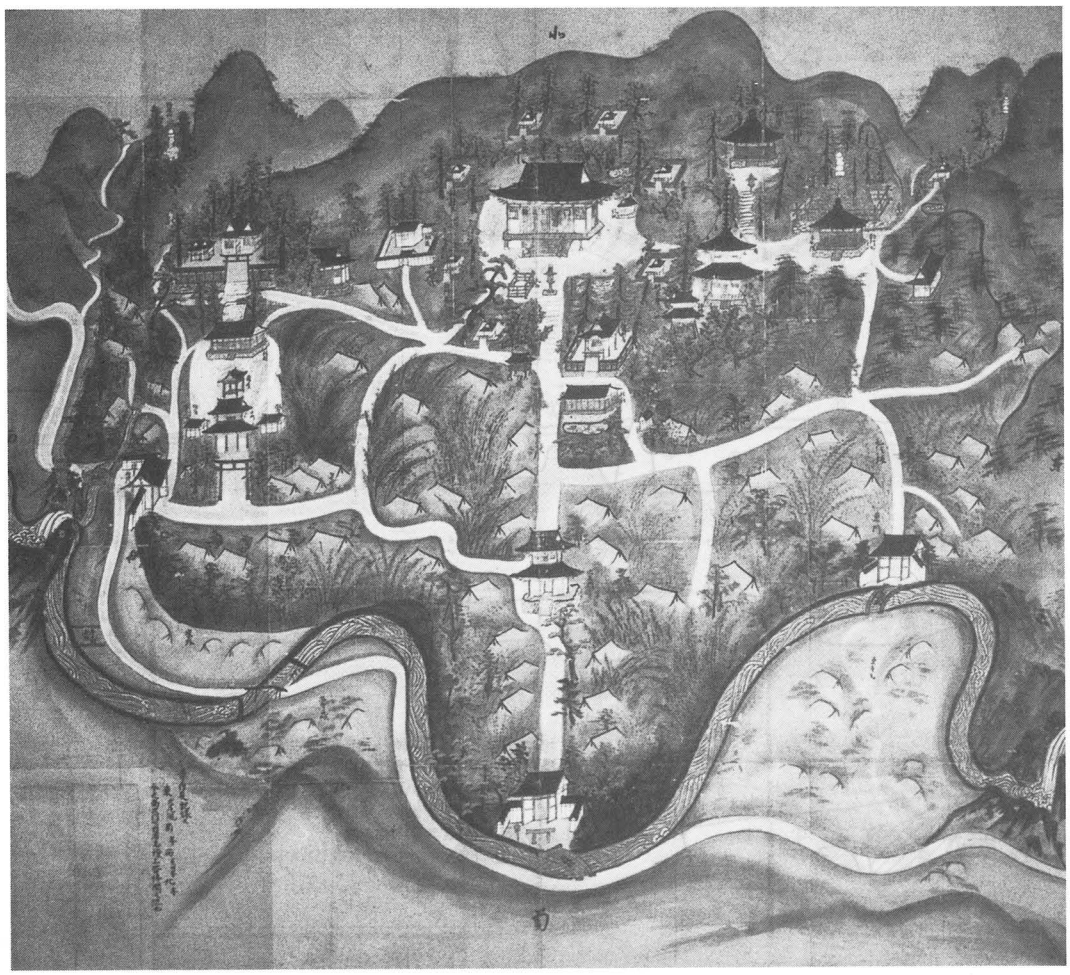
鎌倉時代末になると政治の荒波に観心寺も例外なく巻き込まれていった。当時の政情不安もあり、元弘三年（1333）後醍醐天皇は弘法大師作と伝える不動明王像を宮中に遷座するよう観心寺に綸旨を下した。この出来事は特異な出来事であったため、このことに関して楠木正成やその他いくつかの書状が伝えられている。

南北朝時代の延文四年・正平十四年（1359）には、後村上天皇が天野山金剛寺の行在所から観心寺へと移り、明徳三年・元中九年（1392）に両朝が合体するころには、南朝方であった当寺は行在所としての経済的負担もあり、寺運は衰退の一途を辿り寺領のほとんどを失っていった。

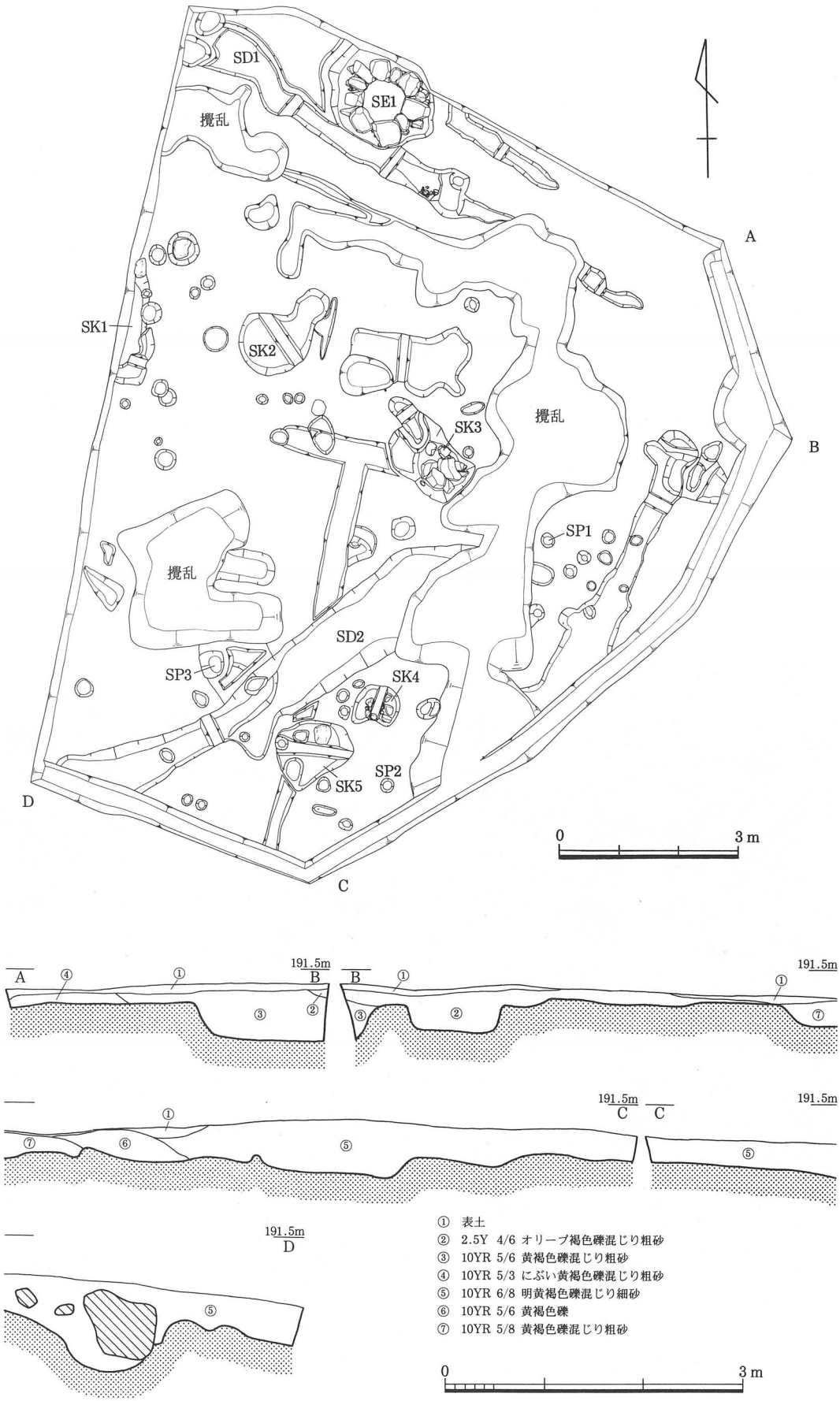
江戸時代には、『河内名所図会』（1801年）や『観心寺境内図』（年代未詳、観心寺所蔵）に描かれたような多数の子院を持つ広大な伽藍にまで復興した。しかし、幕末には全国的な廃仏棄釈の流れの中で僧侶の数は次第に減少し、やがて多くの子院はその姿を消し、今日では槙本院（現在の本坊）、中院のみが子院の様子を伝えている。



第15図　『河内名所図会』巻之一錦部郡「観心寺本堂」



第16図　『観心寺境内図』



第17図　ＫＳＴ99－１遺構配置図（1/100）及び土層断面実測図（1/60）

第４節　調査の結果

調査は表土及び攪乱土を機械掘削し、次いで人力による掘削、精査、遺構検出、遺構掘削を行った。

検出した遺構には溝、井戸、土坑、ピットがあった。出土遺物にはおもに中世から近世のものが見られたが、遺構から出土したものはわずかであった。

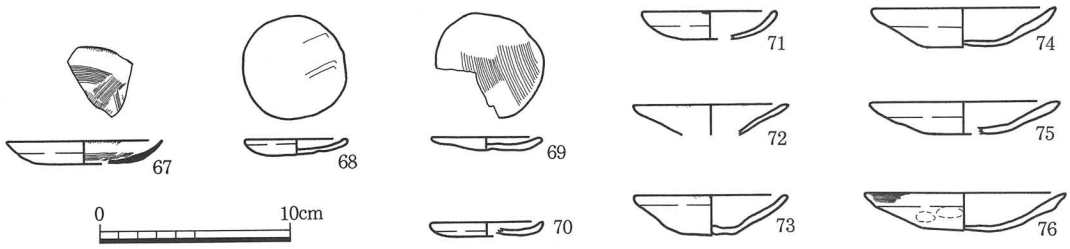
基本層序は、①表土（層厚0.1m）、⑤10YR6/8明黄褐色礫混じり細砂（同0.3m）であった。（第17図）

（１）　溝

［ＳＤ１］（第18・19図、図版５・10）

ＳＤ１は調査区の北側に位置する。遺構の北西端は調査区外に及ぶ。検出規模は、長さ９ｍ、幅0.12～0.8m、深さ0.02～0.13mを測る。軸方向はＮ－60°－Ｗである。

遺構の中央部から、土師質土器の皿（68～76）、瓦器椀、瓦質土器の皿（67）がまとまって出土した。

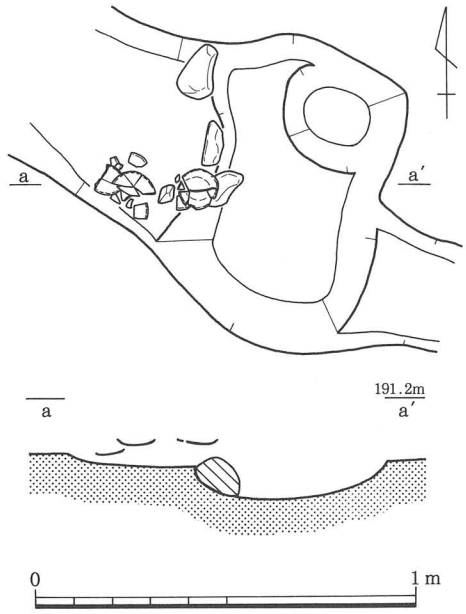


第18図　ＳＤ１出土遺物実測図

［ＳＤ２］

ＳＤ２は調査区の南側に位置する。遺構の南西端は調査区外に延び、北東端は削平を受けている。検出規模は、長さ８ｍ、幅0.52～1.28m、深さ0.09～0.24ｍを測る。軸方向はＮ－62°－Ｅである。

遺物は出土しなかった。



第19図　ＳＤ１遺物出土状況図（1/20）

（２）　井戸

［ＳＥ１］（図版５）

ＳＥ１は調査区の北端に位置する石組の井戸である。北側が調査区外に及ぶが、掘形の平面形は歪な楕円形である。検出規模は、掘形の長

径２ｍ、短径1.44ｍ、石組の内径0.7ｍ、深さ1.2ｍを測る。石組には川原石が使用されており、最大のもので44×46×48㎝を測る。

遺物は出土しなかった。

（３） 土坑

［ＳＫ１］

ＳＫ１は調査区の西端に位置する。他の遺構と重複し、西側が調査区外に及ぶため、詳細は不明である。検出規模は、長軸1.6ｍ、短軸0.3ｍ、深さ0.25ｍを測る。

遺物は平瓦が出土したが、細片のため実測できなかった。

［ＳＫ２］

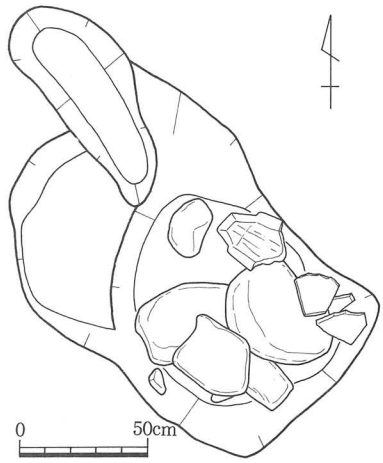
ＳＫ２は調査区中央部の西側に位置する。遺構の平面形は不定形である。規模は、長軸1.75ｍ、短軸1.16ｍ、深さ0.09ｍを測る。

遺物は平瓦が出土したが、細片のため実測できなかった。

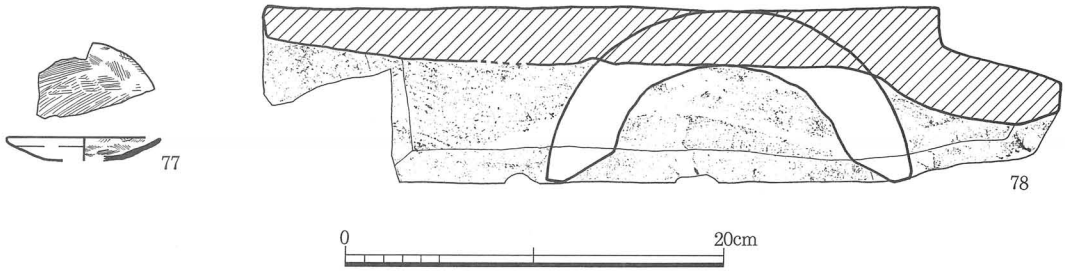
［ＳＫ３］（第20・21図、図版６・10）

ＳＫ３は調査区の中央部に位置する。遺構の平面形は不定形である。規模は、長軸1.46ｍ、短軸1.04ｍ、深さ0.32ｍを測る。

遺物は土師質土器の皿、瓦質土器の皿（77）、丸瓦（78）、平瓦が出土した。



第20図　ＳＫ３遺物出土状況図（1/30）



第21図　ＳＫ３出土遺物実測図

［ＳＫ４］

ＳＫ４は調査区の南側に位置する。遺構の平面形は不定形である。規模は、長軸0.88ｍ、短軸0.76ｍ、深さ0.18ｍを測る。

遺物は土師質土器の皿が出土したが、細片のため実測できなかった。

［ＳＫ５］

ＳＫ５は調査区の南側に位置する。遺構の平面形は不定形である。規模は、長軸1.32ｍ、短軸1.2ｍ、深さ0.17ｍを測る。

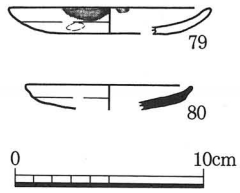
遺物は平瓦が出土したが、細片のため実測できなかった。

（４） 遺物出土ピット

［ＳＰ１］（第22図、図版10）

ＳＰ１は調査区の東側に位置する。遺構の平面形は円形である。規模は、径0.23m、深さ0.43mを測る。

遺物は土師質土器の皿（79）、陶磁器、軒丸瓦が出土した。



第22図　ＳＰ１・２
出土遺物実測図

［ＳＰ２］（第22図、図版10）

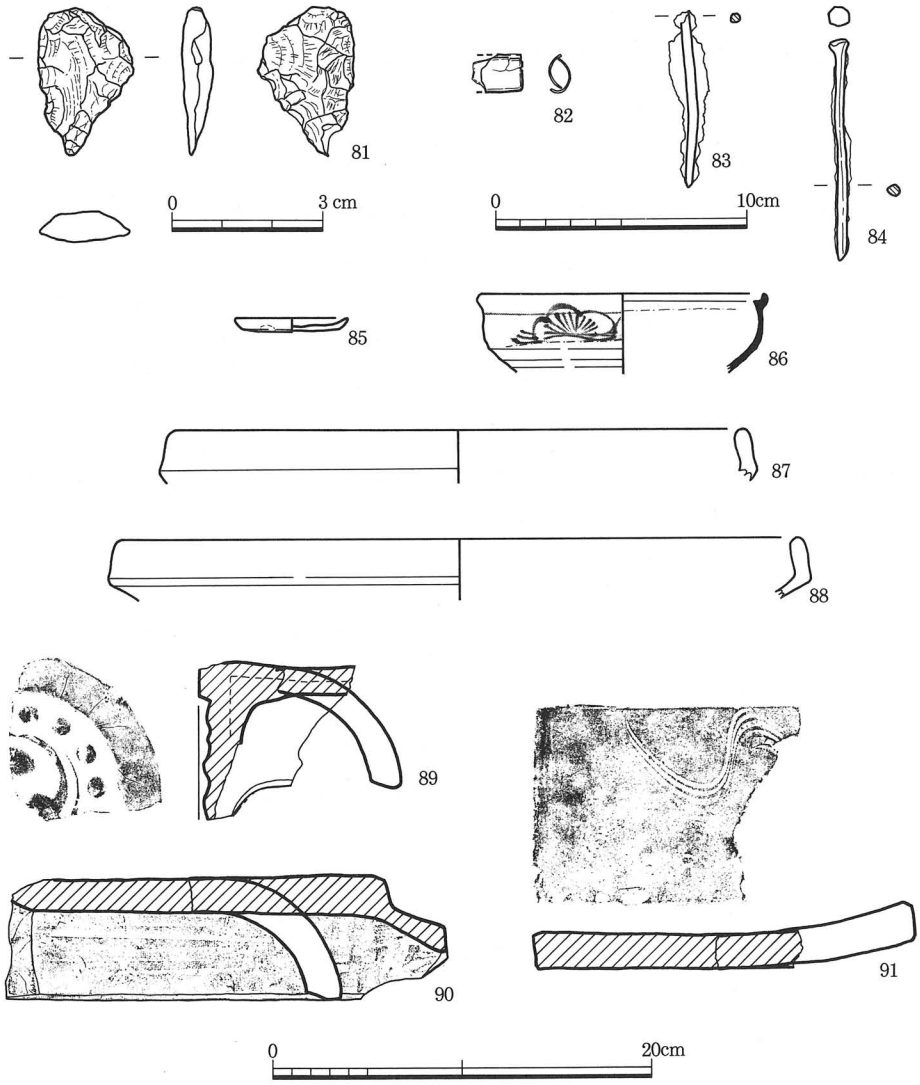
ＳＰ２は調査区の南端に位置する。遺構の平面形は円形である。規模は、径0.23m、深さ0.48mを測る。

遺物は土師質土器の皿、瓦器の皿（80）、瓦質土器の甕、平瓦が出土した。

［ＳＰ３］

ＳＰ３は調査区の南西側に位置する。平面形は歪な方形である。遺構の規模は、長辺0.46m、短辺0.4m、深さ0.11mを測る。

遺物は平瓦が出土したが、細片のため実測できなかった。



第23図　包含層出土遺物実測図

（５） 包含層（第23図、図版10）

包含層からは、サヌカイト製の石錐（81）、土師質土器の皿（85）・炮烙（87・88）、瓦器埦、陶器の鍋（86）、軒丸瓦（89）、丸瓦（90）、平瓦（91）、キセル（82）、鉄釘（83・84）が出土した。

第５節　まとめ

調査の結果、中世と近世の遺構、遺物を検出したが、削平や攪乱を多く受けていることから建物跡などは検出できなかった。また、調査地には小字名は残されていないが、調査地に近接する北側には「真福院」、東側には「竹中坊」、南側には「文殊院」、「五智院」という小字名が残っていることから、調査地はこれらの子院に含まれているのかもしれない。したがって、ＳＤ１やＳＤ２はこれらの子院間の境界、もしくは建物の区画として構築された可能性が考えられる。

また、ＳＥ１は石の組み方や石材の様相から、近世以降に石組の組み直しが行われているようである。子院に伴う井戸であった可能性が考えられるが、駐在所ができるまでは機能していたことが予想される。さらに、ＳＥ１の南側に近接するＳＤ１では、灯明皿や生活雑器として用いるにはあまりにも小さすぎる土師質土器の小皿を含む土器集中地点が検出されており、水天などに対する修法が行われた可能性も考えられる。

密教、特に真言系密教においては、井戸には水の主である天部の水天が宿るとされ、現在でも井戸を埋める際、「井戸埋之作法次第」に随い、井戸の水天を撥遣（はっけん）（迎請（げいしょう）した仏を天上に帰すこと）するために井戸端で修法（行法（ぎょうぼう））が行われる（註１）。この際の修法における供物は、折敷の上に並べられた土器に抹香、散米などが盛られる。供物を盛る容器は事供（じく）の象徴であることから、本次調査出土の小皿であっても修法には一向に差し支えがなく、むしろ適していたとも考えられる。だが、必ずしも供物の数が、調査者の知り得る現行の次第と出土した小皿の枚数とが符合するものではない。したがって、このような修法に用いた可能性の指摘に留めたい。

また、本来、井戸は廃棄時に土や石などで完全に埋めてしまうが、ＳＥ１が埋め戻された痕跡がないのは、子院の廃寺の際に、何らかの事情で井戸を完全に埋める手間をかけられなかったとも考えられる。

（註１） 作法次第については、桑原弘海氏（福徳寺住職）に御教示いただいた。

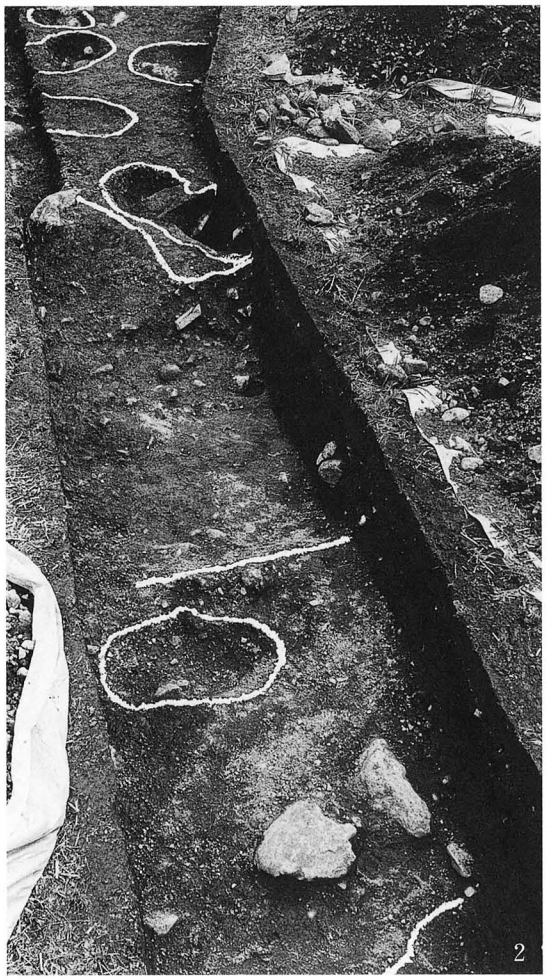
図　　版

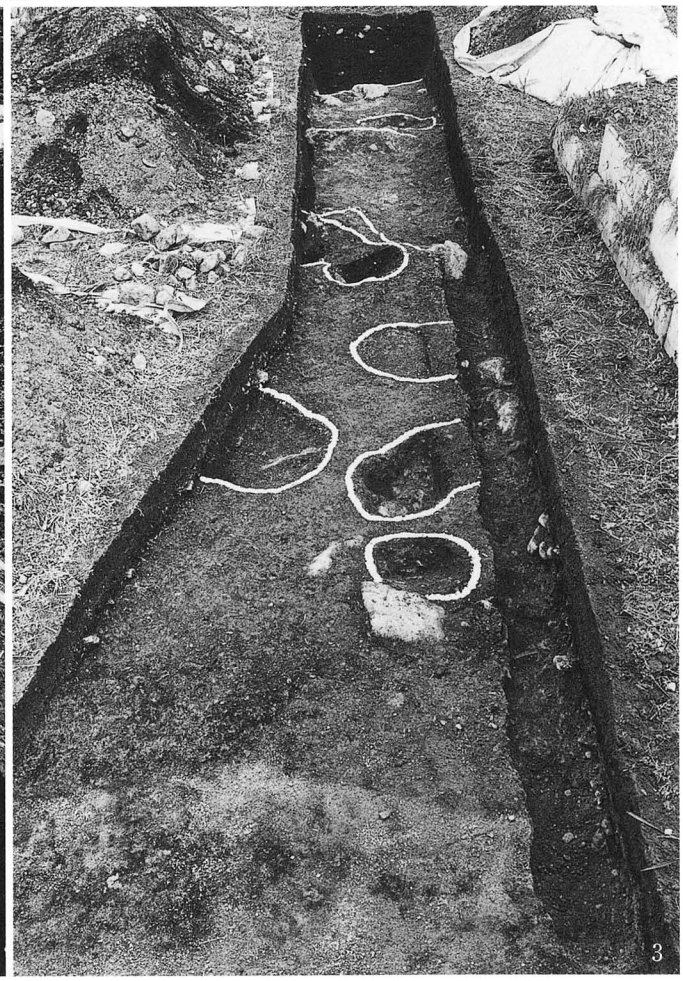
図版1　太井遺跡（OOI98－1）

調査区全景（南から）

調査区全景（北西から）

図版2　太井遺跡（OOI98−1・99−1）





1. OOI98−1　ＮＶ２(西から)　2. OOI 99−1　第１調査区(北から)　3. OOI 99−1　第１調査区(南から)

図版3　太井遺跡（OOI99−1）

第2調査区（西から）

第3調査区（西から）

図版4　観心寺遺跡（KST99-1）

調査区全景（東から）

調査区全景（南から）

図版5　観心寺遺跡（KST99-1）

SE1（南西から）

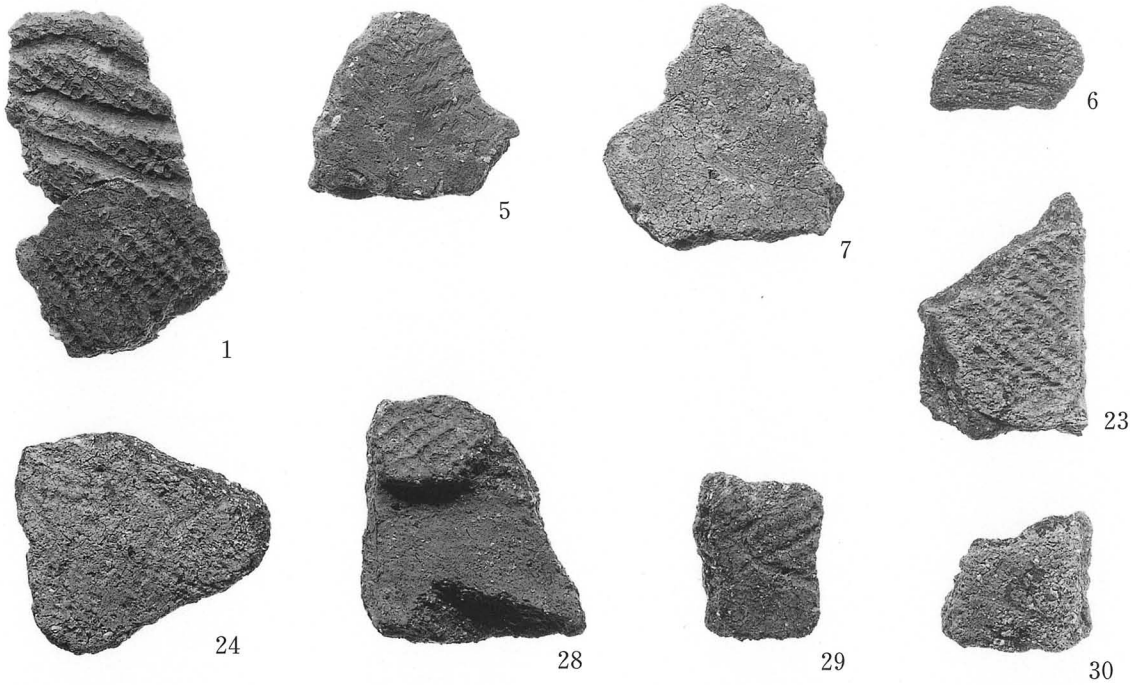
SD1（西から）

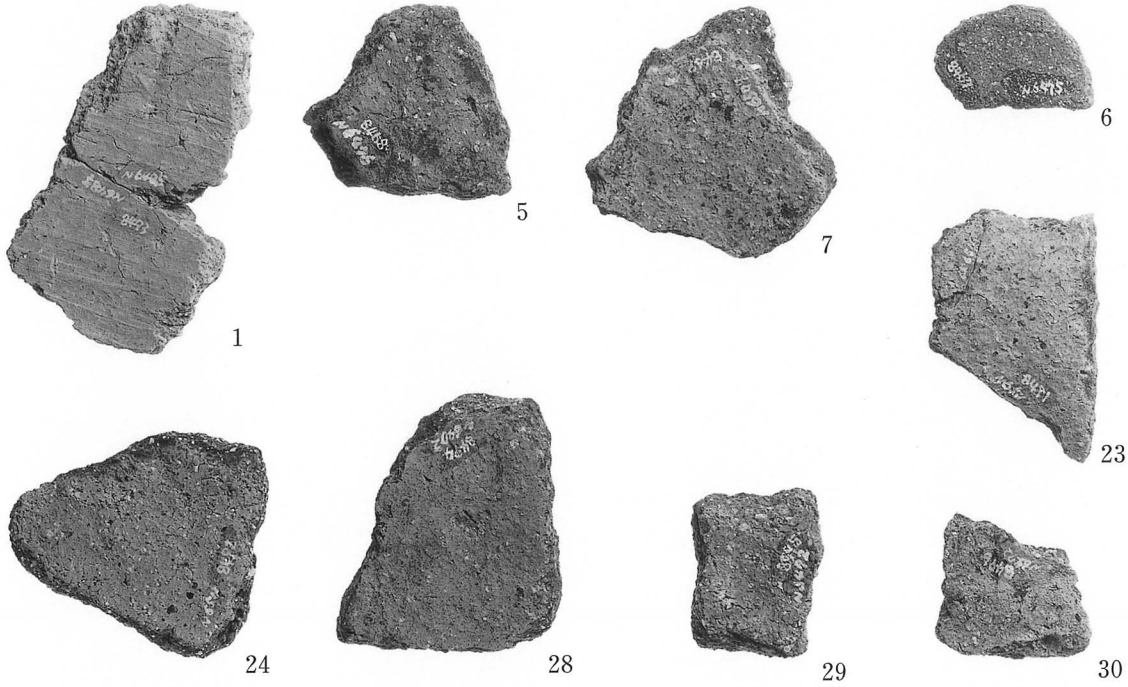
図版6　観心寺遺跡（KST99－1）

ＳＫ３（南西から）

作業状況

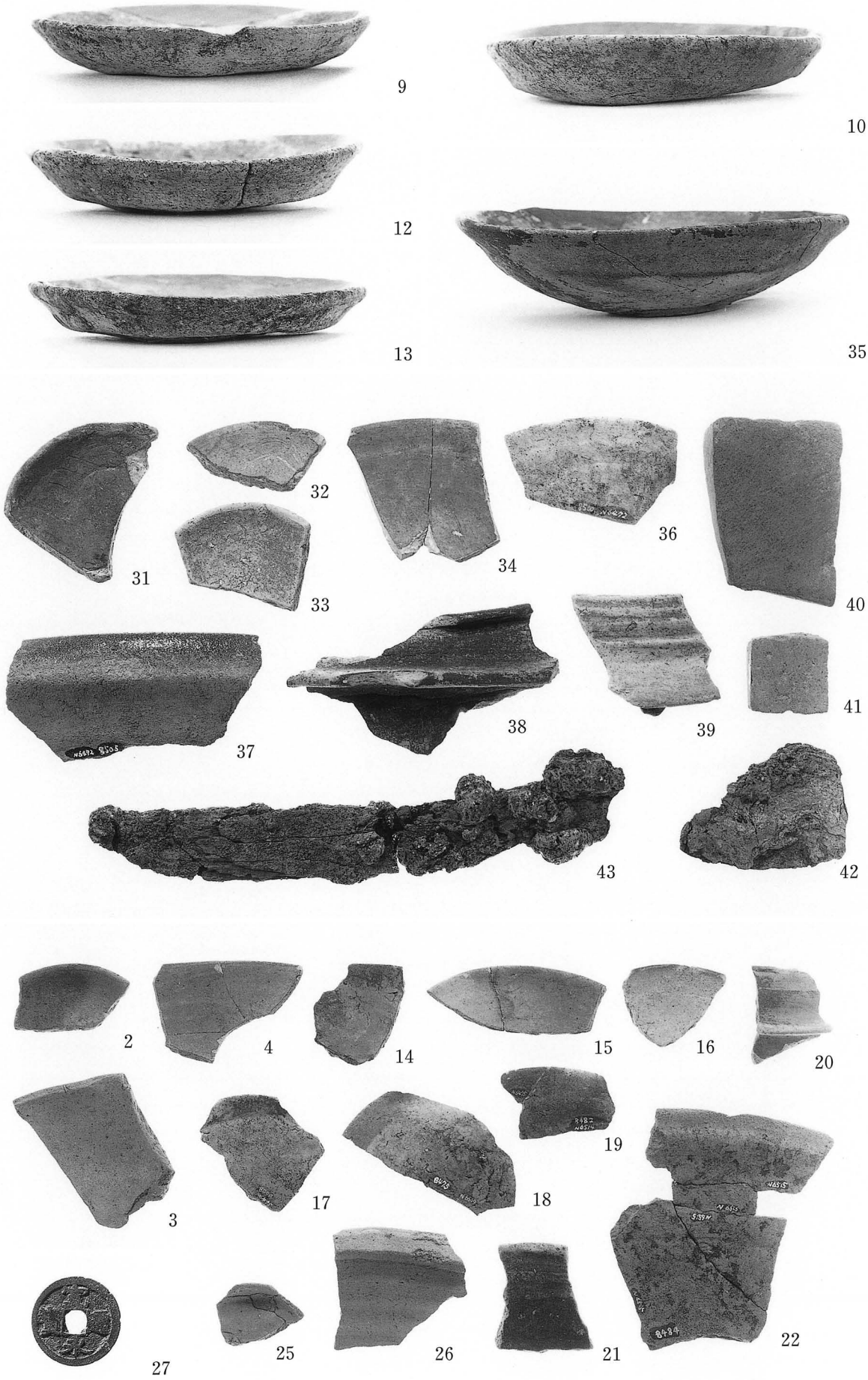
図版7　太井遺跡（OOI98－1）





ＳＫ９(１)、ＮＶ１(５～７)、ＮＶ２(23・24)、包含層(28～30)

図版8　太井遺跡（OOI98－1）



ＳＫ８(２)、ＳＫ９(３)、ＳＰ２(４)、ＮＶ１(９・10・12～22)、ＮＶ２(25～27)、包含層(31～43)

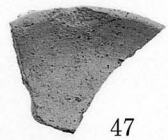
51

57

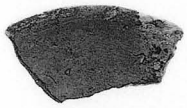
44

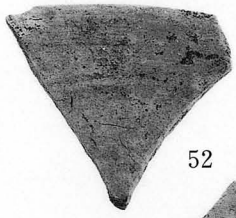
45

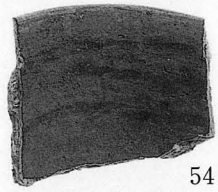
46


47

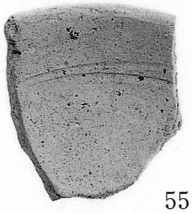
48

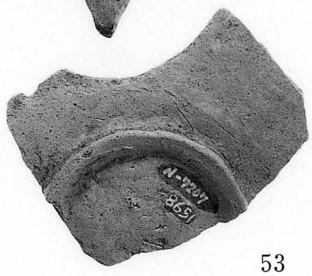

50

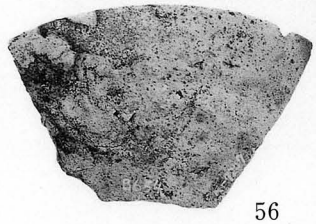

52


54

49

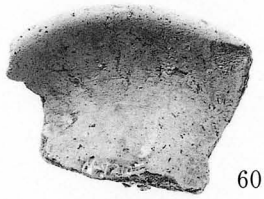

55

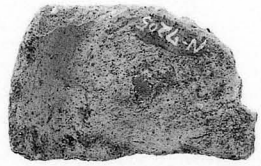

53


56

58

59


60


61

62

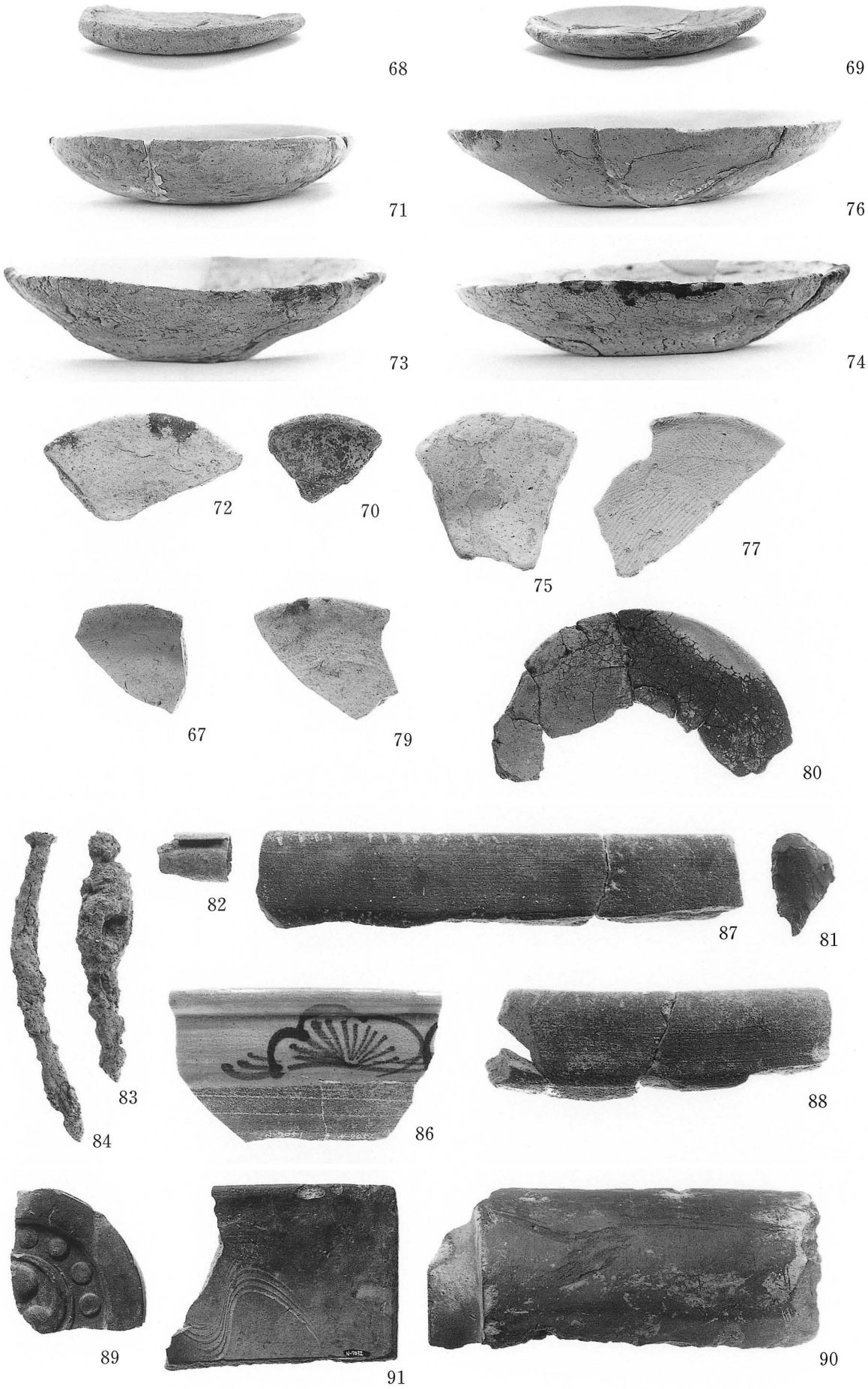
65

63

64

66

ＳＤ１（44～58）、第１調査区包含層（59～65）、第３調査区包含層（66）



ＳＤ１(67～76)、ＳＫ３(77)、ＳＰ１(79)、ＳＰ２(80)、包含層(81～84・86～91)

報告書抄録

ふりがな	おおいいせき　かんしんじいせき
書名	太井遺跡　観心寺遺跡
副書名	河内長野市遺跡調査会報　XXⅡ
シリーズ名	河内長野市遺跡調査会報
シリーズ番号	XXⅡ
編著者名	尾谷雅彦　鳥羽正剛　太田宏明
編集機関	河内長野市遺跡調査会
所在地	〒586－8501 大阪府河内長野市原町396－3　TEL 0721-53-1111
発行年月日	2000年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
太井遺跡(おおいいせき) (98－1調査)	大阪府河内長野市(おおさかふかわちながのし) 太井(おおい)144他	27216	府160 河117	34° 24′ 45″	135° 37′ 35″	1998.12.21 ～ 1999.2.5	112m²	農道改修工事
太井遺跡(おおいいせき) (99－1調査)	大阪府河内長野市(おおさかふかわちながのし) 太井(おおい)132他	27216	府160 河117	34° 24′ 46″	135° 37′ 36″	1999.11.15 ～ 1999.12.20	20m²	農道改修工事
観心寺遺跡(かんしんじいせき) (99－1調査)	大阪府河内長野市(おおさかふかわちながのし) 寺元(てらもと)423－4	27216	府4 河3	34° 26′ 04″	135° 35′ 59″	1999.6.24 ～ 2000.2.29	123m²	駐在所新築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
太井遺跡 (98－1調査)	散布地 集落	縄文 中世	土坑 畝跡 落ち込み	縄文土器 土師質土器 瓦器	石見川の最上流に位置する縄文遺跡であることが判明した
太井遺跡 (99－1調査)	集落	中世	溝 土坑 石垣 落ち込み	土師質土器 瓦器	
観心寺遺跡 (99－1調査)	社寺	中世 近世	溝 井戸 土坑 ピット	土師質土器 瓦質土器 瓦	

河内長野市遺跡調査会報 XXII
太井遺跡　観心寺遺跡

2000年3月31日発行

発　行　大阪府河内長野市原町396－3
河内長野市遺跡調査会
0721－53－1111
印　刷　㈱中島弘文堂印刷所